

LINK2025

第114期

立命館清和会交流記念誌



大還暦

そして永続へ



立命館創立120周年
記念特別号

R RITSUMEIKAN



R
120th
ANNIVERSARY



目次

Contents



- 03 校歌・応援歌
- 04 ご挨拶
- 06 恩師近況
- 12 繋がる広がる
～立命館中学・高等学校「120年」の歩み～
- 20 清和会員メッセージ・活動紹介
- 36  教職員インタビュー～立命館の歩みと思い出エピソード～
- 38  2025年還暦学年(昭和59年卒) 座談会
～甲子園出場の思い出～
- 44  立命館120周年記念事業のご紹介 (鳥島教頭先生ご寄稿)
- 45 立命館小学校の皆さんのご紹介
《高校ご卒業お祝い特別企画》
- 46 卒業後25年目のVOICE
- 教えて!先輩の「お仕事」
- 社会人の「生活」タイムライン
- 私の「ターニングポイント」
- 52 各学年・交流ページのご案内
- 53 デジタルサイネージ広告・幹事学年活動報告
新聞広告のご報告



表紙作成者
題字：藤井翔夢氏 (書道家)
挿絵イラスト：竹内(池尻)七恵 (平成13年卒)

※ご提供の画像は、印刷に適合する解像度に調整を試みましたが、仕上がりに反映されないケースも生じます。ご了承下さい。



校歌

作詞 明本 京静
作曲 近衛 秀麿
編曲 外山 雄三

赤き血潮 胸に満ちて
若人真理の 泉を汲みつ
仰げば比叡 千古のみどり
付す目に清しや 鴨の流れの
かがみもとうとし 天の明命
見よ 我が母校
立命 立命

応援歌

作詞 白井 道造
作曲 高橋 半

空はさながら青春の
胸の雄図の象なり
溢るる力示すべく
えんじの旗をなびかせて
堂々勝ちを争わん
グレートー立命
グレートー立命
心と身を鍛え上げ
清き健児の火を吐きぬ
秋に放たん大ゲーム
「R」の手旗をうちふるい
雄たけびおくる応援歌
グレートー立命
グレートー立命

第114期清和会総会・懇親会開催、ならびに 交流誌「LINK2025」発刊のご挨拶



立命館清和会 会長

岡野 益巳

第114期（平成13年卒）の皆さまには、清和会総会・懇親会の準備、そして本交流冊子『LINK2025』の発刊に向け、早くから熱心にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。『LINK』は、「卒業生や恩師が世代を超えて強い絆でつながり、その輪をさらに広げていきたい」という思いのもと、第104期（平成30年卒）の学年会によって2015年に創刊されました。皆さまの温かいご協力のおかげをもちまして、本年度で通算第11号を迎えることとなりました。

本号でも、多方面でご活躍されている先輩方からの貴重なメッセージをご紹介します。これらの言葉が、高校3年生の皆さまが進路や職業を選ぶ際の一助となれば幸いです。

最後に、『LINK2025』にメッセージをお寄せいただいた卒業生の皆さま、恩師ならびに現役の先生方に、心より厚く御礼申し上げます。



立命館中学・高等学校
校長

東谷 保裕

清和会の皆様、立命館中学校・高等学校は今年、創立120周年を迎えることができました。この節目に、本日の総会において皆様と共に歩んできた歴史を振り返り、未来について語り合えることを大変嬉しく思います。本校は、時代の変化を見据え、次世代を担う人材の育成に努めてきました。STEAM教育を基盤に、グローバルな視点を取り入れながら、生徒一人ひとりの個性を尊重し、未来を切り開く力を育てています。今年の夏には、多様なデジタルツールを完備した「次世代型多目的ラボ」が完成し、教育環境が一層進化しました。これにより、生徒たちの可能性を広げ、新たな学びのステージが開かれました。今後もさらなる発展を目指し、全教職員一同、努力を続けてまいります。引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



立命館小学校 校長

小笹 大道

第114期清和会総会の開催、おめでとうございます。立命館小学校は2006年度に開校し、今年度で20年目を迎えます。7月には、本校体育館にて開校20周年記念式典を執り行い、児童の発表や未来宣言を、参列いただきました皆様にお届けしました。

小学校では、「世界を変えていく人が育つラーニング・コミュニティ子どもと大人が共に挑戦をたのしみ、変化・成長し続ける学校」というコンセプトを掲げています。清和会の皆様をはじめ、立命館を愛する皆様と共にラーニング・コミュニティを形成し、より良い教育活動を展開していきたいと思っております。

今後、11月1日（土）に本校にて大ホームカミングデー、2月28日（土）に朱雀キャンパスにて教育シンポジウムを開催する予定です。引き続き皆様の温かいご支援・ご指導賜りますよう、どうぞよろしくお願い致します。



立命館中学・高等学校
PTA代表

三宅 尚嗣

第114期立命館清和会総会・懇親会の開催誠にありがとうございます。昨年度に引き続き立命館中学校・高等学校PTAの会長を仰せつかります三宅尚嗣と申します。

日頃より立命館中学校・高等学校PTAの活動に対しまして多大なるご理解、ご支援を賜り誠にありがとうございます。本校PTAは「保護者と教職員が協力し子どもたちのよりよき成長のために活動します」を活動方針に掲げ、「すべては子どもたちのために、今我々にできること！」をテーマに、より一層保護者同士の交流を深める機会を創出するとともに、先生方とも連携を密にとり、子どもたちが安全かつ安心して学校生活が出来るように活動を展開しております。立命館清和会々員の皆さまにおかれましては、未来の清和会々員である子どもたちを温かく見守っていただき、引き続きご支援、ご協力を賜れますれば幸いに存じます。立命館清和会、並びに立命館学園の益々のご発展を祈念するとともに、会員皆さまのご健勝、ご多幸を心から願っております。

清和会会員の皆さま、第114期総会懇親会の開催に多大なるお力添えを頂き有難うございました。多数の協賛、寄付をはじめ、活動へのアドバイスや支援を頂き、総会懇親会が無事開催できたこと、まずは御礼申し上げます。

2025年は立命館中学校・高等学校創立120周年となります。そこで清和会総会の開催に当たり、今年のスローガンは2回目の還暦を意味する「大還暦～そして永続へ～」といたしました。これまでの120年間の礎を築いて下さった先人の財産・経験・絆に感謝を持ちつつ、これからの永続に向けて、現代・未来に生きる全ての清和会関係者の今後の更なる飛躍を願ひ、副題は「永続」を使ってテーマを表現し、取り組んで参りました。

活動する中で同級生はもちろん、多くの先輩、後輩の皆様とつながることができ、本当に沢山の良いご縁をいただきました。この清和会でつながった縁が今後の自分自身の人生に大きな意味を持つ気がしています。是非、皆様にも立命館清和会に参加いただき、楽しんでいただくと共に、絆が深まる場になれば嬉しく思います。

創立120周年を迎えました母校、立命館中学校・高等学校の益々のご発展を心より祈念しております。



立命館清和会
平成13年卒業学年会代表

森下 大輔

本日の清和会総会・懇親会の開催にあたり、皆様より賜りましたご協賛やご寄付をはじめ、数多くのご支援に対し、心より厚く御礼申し上げます。

本年、立命館中学校・高等学校は創立120周年という大きな節目を迎えました。準備の過程では、大先輩から若い世代の後輩まで、多くの清和会員の皆様と交流する機会に恵まれ、立命館が歩んできた歴史の重みと、その中で培われてきた「自由の風土」の普遍性をあらためて実感いたしました。120年の歴史を受け継ぎ、未来へとつなげていく営みの尊さを思うとき、母校がこれからも一層の発展を遂げていくことを心より祈念いたします。我々の学年会も、その歩み的一端を担わせていただけることを大きな喜びとしております。

本日の会が、世代を超えて清和会の皆様お一人おひとりにとりまして、かけがえのないひとときとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。



立命館清和会
平成13年卒業学年会代表

大山 牧子

恩師近況

先生と生徒、このご縁があって今の私たちがいます。
LINK編集メンバーで、恩師を訪ねて長岡京キャンパスを訪問！
清和会担当の市原先生にもお力添えをいただき、ご退職された先生方を含め、たくさんの恩師の近況をお伺いすることができました。お忙しい中ご協力いただきありがとうございます。（※五十音順にて掲載。紙面の都合上、順番が前後している部分もございますがご了承ください。）



5年前に隠居生活を始めた時、丁度コロナ騒動で社会全体が混乱していた。私はある意味「すごく快適に」隠居生活を楽しんでいた。しかし最近今までの反動でジッとしているのが嫌になった。さてこれから何をするか。

石川 正明 (音楽科)



「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」として、京都市立芸大在学中の上の娘が作成した京都駅前のペンギンです。
年末に初孫誕生！昔みたいに体力はないけど、子育てを手伝います！

五十川 哲弥 (数学科)



以前のLINKでも報告いたしましたが現在でもランニングは継続しております。今年創立120周年のアニバーサリー・イヤーとなるので、120kmランを計画しています！
10月の総会時には、完走できたかどうか・・・ご報告する予定です。どうなるかな？(汗)

伊藤 広和 (保健・体育科)



皆さん、お元気にされていますか。永遠に教員生活は続くのだらうと思ってきた私ですが、今年65歳を迎え、いよいよ教壇から降りる年になりました。時は無常にも流れていくものですね。そして我が立命館も今年で120年目。私たちが本校で過ごした掛け替えのない熱き青春時代が数珠繋ぎになって、これからは未来に向かってよくよく続いていくことを願っています。

上田 正治 (英語科)



昨年度立命館に勤めて25年を迎えました。また立命館宇治からこちらに異動して14年目になります。25年で沢山の生徒たちの成長に触れ、また私自身も今は大学のときに始めた社交ダンスを再開し、さらに頑張っています。

上田 幸恵 (数学科)



～卒業生へのタカリ「日本一」のOB教員を目指して～

若い頃、卒業生との親しい付き合いを自慢する先輩教員がいました。その姿がどうしても好きになれず、私は心の中で強く誓いました――「俺は絶対、ああはならない」と。

……あれから、幾歳……

今の私とはいうと、浴衣や帯の寄付、清和会総会への新聞協賛、中学生の職場体験、高校での進路講座講師など、「公的」な依頼を無理強いすることはもちろんのこと、月に平均2回は、様々な世代の卒業生たちと酒を酌み交わすという、非常に「私的」な付き合いを続けています。

ここまできたら、もう腹をくくるしかありません。卒業生にこれでもかと頼り、甘い、飲ませてもらい、助けてもらおう――私は、「卒業生への依存・タカリ」で日本一を目指すOB教員になる覚悟です！

市原 康男 (英語科)



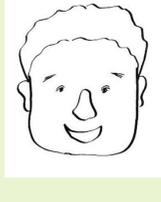
近況を書きます。考査で「杏子」(古井由吉)を出題しました。何人かの生徒が気に入ってくれて、うれしく思いました。京都へジムオールドを聴きに行きました。今度ブライアンイーノの映画にいきます。気持ちよくふらふらしています。

歌川 雄介 (国語科)



今年の夏は、本当に暑さが厳しく、日々ヘトヘトになった心身の疲れを「猫を吸う」ことで癒して乗り切ってきました。おかげで(?)もう猫なしの人生が考えられない体になってしまいました。

大島 岳彦 (数学科)



みなさん、お元気ですか。本校卒業生である帰属意識を大事にして、今後とも活躍ください。3月に退職するまでに会えたら幸いです。

お招きいただけたら、清和会懇親会でお会いするのを楽しみにしています。

奥田 力 (英語科)



今年度より授業担当講師として、週に4日勤務しています。元気な高2と楽しく授業しています。少し時間に余裕ができましたので、さまざまな事にもチャレンジしているところです。

尾崎 哲朗 (保健・体育科)



働くことから完全にはなれて1年。早寝早起き、三度の食事、1日1度は外出(できるだけ妻と一緒に歩く)。そんな変化の少ない地味かもしれない生活に少しの刺激と楽しさを与えてくれるのが、推し活と新たなチャレンジですね。

推し活は、もちろん広島カープ！6月29日現在セリーグ2位！

新たなチャレンジ、今年は8月に国立文楽劇場の寄席に行く予定！5月に68歳になった私は今年も元気に生きています。

小野 宏 (社会科)



立命館中高での年月も、勤続うん十周年を超え、その事実には驚いてしまいます。最近では生徒が卒業生のお子さんということも増えました。清和会総会で皆様にお会いできることを毎年の楽しみとしております。

加藤 美也子 (国語科)



退職し再任用3年目になります。高校3年生の担任、サッカー部の顧問をしています。

そろそろ、次のステージへとも思っていますが、それが次のシーズンかその次のシーズンか決めかねているところです。

とりあえず、今年度いっぱい頑張っていたかあかな、と思いつつ生徒たちと接しています。

川岡 康夫 (保健・体育科)



第114期立命館清和会のご盛会を衷心よりお祝い申し上げます。幹事学年の皆様とは、京都市民3万人が龍谷大学深草キャンパスに集まった「私学フェスティバル」が思い起こされます。学校の垣根を越え、生徒、保護者、教員の立場も越えた、大きな大きな文化祭のようでした。当時は国際教育を担当していましたので、留学で出会った方々も多かったと存じます。

私は2023年に定年退職し、今は、「仰げば鼻歌」の私学をサポートをしたり、府立高校の学校協議会の委員をお受けしたりと、教育関係の仕事が続いています。子どもたちも成人しましたので、学区の運動会を控え、筋トレ、ランニングで体を鍛える日々です。

岸田 康子 (国語科)



「コマクサハホホエム」

この短文は60余年前に私が信州大学入試の後に合格通知の電文です。因みに、不合格の時には「アフレ サクラチル」だったようです。当時の学生自治会メンバーが活動資金稼働でやっていたのですが、珈琲や中華そば一杯50円の頃、いくらだったかは覚えていません。

固定電話がやっと普及してきた頃、一般市民が手にすることができた最速の通信手段が電報でした。大学の出す合格通知書よりも早くに届くこの合否電報を今の何に例えたらよいのでしょうか？

貴島 嗣夫 (技術科・理科)



120周年の年ですが2度目の高校生生徒会顧問をしています。

節目の年に、生徒主体の行事運営に携われることができ、日々充実しています。残りの教員生活も自ら変化を楽しんで過ごしていきます。

清田 祥一郎 (情報科)



清和会総会・懇親会の開催おめでとうございます。また、平成13年卒の皆さん、各学年幹事・代表の皆さん、様々なご準備ありがとうございました。今年の幹事学年の皆さんは私が中1で担任を持ったときの学年であり、懐かし、また感慨深いものがあります。

本校は今年で創立120周年を迎えました。生徒一人一人を大切に、生徒たちの自主性を重んじる伸びやかな校風の伝統は昔も今も変わりません。

清和会総会・懇親会の場などで卒業生の皆さんと笑顔でお会いできることを心から楽しみにしています。

久保田 一暁 (理科)



退職以来、月1回程度大山崎町のデーケアセンター「なごみの郷」にて歌唱指導をさせて頂いています。これが健康の源となっています。

いつの間にかOB教職員の最高齢となりました。お陰様で様々な学年の同窓会に呼ばれています。できるだけ参加するようにしています。清和会総会での再会を楽しんでいます。

小林 正樹 (音楽科)



三つの合唱団に通うのが今の「仕事」。日本語の曲、ラテン語の曲、ゴスペルなど色々歌うのですが、歌いながら踊る、楽譜を持たずに歌う(暗譜)、など高齢者には厳しい注文がつかます。えっ、ペーターベンの第九ですか？もちろん暗譜で歌えますよ。

小村 英一 (国語科)



立命館に入って47年。立命館中高を皮切りに、小学校、大学、大学院まで立命館にあるすべての教育段階で教壇に立つことになるのは夢にも思いませんでした。
立命館の発展期に当たったとはいえ、得難い教員生活を送らせてもらいました。
今は、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所に所属して、古代文字を用いた漢字教育（白川漢字）の普及に努めています。ここまで来たら立命館で半世紀を過ごすことを目標に、日々健康に努めていきます。

後藤 文男 (国語科)



最近四国に縁ができたようです。昨年は高知県の土佐清水市に、今年は高知市の北に位置する香美市に出かけ、地すべりなどの調査をしています。
四国山地の山頂部に「アカホヤ」と呼ばれる火山灰層（7300年前の界隈ヶ島の噴火による）が分布していることがわかりました。ところで、香美市はアンパンマンの作者、やなせたかし氏の出身地です。
4月にNHKの朝ドラのロケ地や記念館を見してきました。

紺谷 吉弘 (理科)



67歳になりました。ボケ防止のためできるだけ予定を立てて地下鉄と徒歩で外出するようにしています。
落語、文楽、古墳めぐり、コンサート、美術館、演劇です。ペラндаでの野菜作りにはまり、緑に囲まれ温暖化と食糧危機への対策です。

坂上 浩一 (理科)



毎年清和会参加を楽しみにしてきた教員生活も、残すところ来年度に定年を迎えます。
今も変わらず超絶楽しい日々が過ごせているのもひとえに卒業生含む生徒の皆さん、保護者、先輩方はじめ先生方、スタッフの皆様のおかげです。2027年3月にそのゴールテープを切る時どんな景色が待っているか想像し、残りの日々をがんばります。今年も盛会をお祈りしています。

澤 智子 (英語科)



今年度の清和会総会・懇親会の開催、おめでとうございます。第114期の皆様とは、私が立命館中高に来た年に中3で1クラス英語の授業を担当したが縁のある学年でしたが、個性的な生徒の多い元気な学年だったと記憶しています。
総会で、卒業生の皆様にお会いできることを楽しみにしております。

白井有紀 (英語科)



清和会総会・懇親会の開催おめでとうございます。今年も体育授業担当として週4日学校に出勤しています。
大きな変化といえますと、男子校時代から中学男子バスケットボール部顧問として指導に関わってきましたが、今年度鬼塚誠太郎先生にすべてを引き継ぎることができました。卒業生のみならず色々ありがとうございました。
これからは一人のバスケ好きとして立命館中高バスケ部の活躍を応援していきたいと思っております。

澤井 久子 (保健・体育科)



はやいもので、立命館中高の教員となって40年が経ってしまいました。現在でも元気に週12時間の授業と中学女子バスケットボール部を担当している。
日々生徒に接している自分と年を取っていることをつい忘れてしまいがちである。
また、暇を見つけては趣味の釣りや楽器の演奏などにいそんでいる。
少しずつ身体は弱ってきているが、授業やクラブ活動ととにかく歩くこと、そして楽器の演奏などで指先を動かすことが、ボケ防止につながっていると思っております。忙しい毎日を過ごしている。
でも卒業生に会っても顔は覚えていますが、名前が出てこないという現実と直面すると、情けなさを感じる今日この頃である。

清水 良司 (理科)



今年の11月で満69歳になりますが、まだ授業担当講師として立命館中高に勤務しております。
立命館中高創立120周年の今年は、昭和100年、そして戦後80年（被爆80年）の節目の年でもありますね。
『Think Globally, Act Locally』地球環境がこれ以上悪化しないように、そして平和な世界が訪れるように願い、週2~3回のジョギングで寄る年波に抗いながら、いろいろなことを学び視野を広げています。

杉原 和孝 (理科)



長寿祝いの節目の一つとして知られる古希も過ぎ、本日は、ピフを収穫してきました。又、田植えの準備で忙しくしています（現在6月初旬）。
私が担任のこの幹事学年は、楽しい思い出がたくさんあります。懐かしい人達と再会できるのを楽しみにしています。

田尻 茂隆 (保健・体育科)



2025年6月14日 『北大路会』にて



トム・クルーズを尊敬してやまない。若い頃はMA-1ジャケットだの、フレアパーテンドリングだのを流行らせたチャラい人だと思っていた。しかし、CGが当たり前の今の時代に、あの齢になってまで現役バリバリのスタントをリアルでやり続けている。
そんなに無理してやらなくてもそれなりのものを作ることはわけないのに。

彼のそのこだわりはどこから来ているのか。おそらく彼は、観ている人を強烈に意識し、没入感を深めてもらうために本物のアクションにこだわっているのだろう。それだけ映画を愛しているということか。
翻って自分自身はどうか。「映画」に置き換えて考えてみる・・・。生涯現役でいたい、と思った時「みんなそう思ってきたんだよな。でもそれが難しいんだよな」とも思った。
僕はトム・クルーズを尊敬してやまない。

神野 哲次 (社会科)



清和会記念誌「LINK2025」の発行おめでとうございます。
立命館中高27年、立命館小学校3年、立命館守山6年の勤務の後定年退職し10年が経過します。
退職後は地域自治会や神社の役員として、またシニアのソフトボールチームの選手として充実した活動を続けてきました。
しかし本年5月末10年来患っていた右変形性足関節症の治療のため、足関節をボルトとワイヤーで固定する手術を受けました。6月下旬まで車いす生活その後歩行訓練のリハビリの予定です。
気持ちはまだまだ元気なので清和会総会への出席を楽しみに身体を整え、卒業生の皆様とお会いできることを楽しみにしております。

建部 宏之 (保健・体育科)



幹事学年の皆様にはお世話になり、ありがとうございます。卒業アルバムを見ながら、明るく元気な当時の皆さんの姿を懐かしく思い出しています。退職後は、親の介護と自分の体力づくりの日々を過ごしています。

辻 千寿子 (社会科)



第114期幹事学年の皆様、総会、懇親会の準備の方、ご苦労様です。清和会会員の皆様には日頃から多大なるご支援を賜り御礼申し上げます。
私は昨年度より周年事業担当の教頭の職を務めており、ここ2年は周年事業の成功に向けて取り組む中で会員の皆様の母校愛の強さを実感いたしております。私自身は気づけば立命館に奉職して23年目を迎えております。

鳥島 裕之 (数学科)



幹事学年の皆さん！ご苦労様です。卒業25年目となりましたか。おめでとうございます。
私は、立命館で90周年、100周年、110周年と過ぎて、今年なんと120周年です。ここまで頑張れたのも皆さんのおかげと感謝しています。あともう少し「苗ちゃんパワー全開」で頑張ります！
（女子バスケ部の試合の勝敗によっては今回の総会・懇親会にいけないかもしれません。行きたいです。）また会えるのを楽しみにしています！

苗村 亜矢 (数学科)



60歳の定年退職後、継続雇用で更に5年、気がつけば65歳になっていました。母校で勤められることを有難く思っております。
大切にして下さった恩師の先生方には遠く及びませんが、自分の持っているものを少しでも中高の生徒たちに伝えられれば願っています。

仲西 哲夫 (英語科)



およそ40年ほど前、立命館中高が北大路にあった頃「英語科非常勤講師」として数年間勤務させていただきました。
当時お世話になった先生方と「北大路会」でお会いしてお話ができとても楽しいひと時を過ごすことができました。お世話していただいた方々へお礼を申し上げます。
立命館を離れて他校で40年近く教員を続け、今は「年金生活者」として日々暮らしております。先生方とお話しているなかで登場したさまざまなかつての生徒たちは元気にかつやくされておられることでしょうね。どこかでお会いするかもしれませんね。

永沼 政彦 (英語科)



退職後、阿蘇山のカルデラの中にある南阿蘇村に移住しました。約5千帯帯が暮らす小さな村ですが、多分野の芸術家が在住されており、知己を得て、茶道、書道、琴等、伝統文化を学び楽しんでいます。
大自然の中でスポーツの機会もあり、ゆったりと過ごしながらも適度に忙しく、身心を働かす事ができ、元気にしています。
立命館中学・高校での19年間は豊かな感性とすぐれた能力を持つ若者達に鍛えられ、教師として宝物のような日々でした。多くの出会いに今も感謝し、なつかしく思っています。

中坊 伸子 (養護教諭)



いよいよ60歳という定年の年を迎えています。まだまだ若いものに負けず声を出しています。
今回の幹事学年は、自分が30代前半に高校3年間学年主任をした学年なので、強く印象に残っています。
自由闊達で仲間意識が強く、情に厚く、悪さしますがそれが個性を貫いていましたね。

硬式野球部員たちと共に「夢中（バカ）」になってやってきました。二十歳の居酒屋座敷を100名以上で埋め尽くした同窓会も凄かった。
この幹事学年が卒業前に作った学年文集が、ついこの間机を整理してたら出てきたので懐かしく見ていました。

中村 圭吾 (保健・体育科)



59年前に中学校に入学し、後に母校の教員となり、立命館を通じて多くの人と出会えました。
次々と還暦を迎える卒業生たちと余生を楽しませてもらっていますが、70歳を越えて体力や気力の不安と闘う日々でもあります。

西田 俊博 (社会科)



昨年は6年間担任で持ち上がった学年が、今年は高3だけを飛び入りのような形で担任した学年が幹事をやってくれるということに嬉しい限りです。

さて、私の方は定年後、引き続き5年間の継続雇用制度で働き続け、今年で4年目を迎え、高校3年3組の担任をしています。教員生活の終わりが近づいているなか、縁の深い学年が2年続けて幹事をしてくれ、さらに今年は120周年と、良い思い出になります。

西村 博史 (数学科)



2025年度は中学1年生の担任をしています。人生初挑戦となっています。まだまだ未知の世界がたくさんあることを体感しつつ、体力的に少々きつくなっているのは猛暑のせいかな？と思う今日この頃です。

野々村 優子 (数学科)



1995年～8年間、深草にて教員青春時代を過ごした時間はとても愛しい時間です。2009年に立命館守山中高に赴任し17年目になります。ご縁に日々感謝し、教員生活もう少しがんばります！皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

樋口 恒世 (保健・体育科)



2023年3月に定年退職し、今はJICA海外協力隊ボランティアとして、インドネシアのメダンにいます。発展著しいインドネシアですが、水のシャワー、手で洗濯など、不便生活を味わっています。この海外での異文化体験は、自分や日本を見直す機会となっています。(2025年10月帰国予定)

野村 康代 (国語科)



2025年度清和会幹事担当の皆様、会の運営のために奔走していただきありがとうございます。
こちらに勤務して以来、時の経つのは早く25年以上になりました。英語教科の授業準備と担任としてのHRの準備に余裕なく走り続けてきました。学校に訪れにきて声をかけてくれる卒業生の成長を知ることは誇らしく、本当に嬉しいです。

せっかく声をかけていただいても、顔は覚えていても名前が出てくるのが、会って何時間後というきが多く、申し訳ない気持ちでいっぱいなのですが、これも個性の1つとして許してもらえると有難いです。卒業生の皆さまの健康と発展をいつも祈念しています。

林 桂子 (英語科)



立命館中高36年の勤務の間、本当に様々な経験をし、多くの思い出を頂きました。中学一年生と共に2泊3日で岐阜県に行った「山の学舎」、放課後延々と行ったHR、生徒会との学内協議会での文化祭をめぐる議論・・・余談のし過ぎで導入部分だけで終わる授業等々本当に懐かしく思い出します。現在は作業所での農業指導の傍ら、農園に集まる昆虫の調査を2～3年続けています。

人生これ「一生学習」です。今後も頑張るつもりです。皆さんもこの老体に負けずに、自分の生き方を追求して下さい。益々のご活躍を祈念します。

日高 俊行 (理科)



立命館中学校・高等学校で27年間勤務してきました。この学校が年月を経て成長し、革新を続けてきた様子を見届けられたのは、本当に素晴らしい経験でした。

特に、国際交流プログラムの発展は非常に印象的で、最もやりがいを感じた部分の一つです。
海外研修や受け入れプログラムを通して、生徒たちは英語力を高め、新しい文化に触れ、自立心を育んでいます。また、科学や地球規模の課題についての理解を深める貴重な学びの機会にもなっています。これからも、好奇心とオープンな心を持って、世界に目を向け続けてください。

アン・フラナガン (英語科)



私は日々、元気いっぱいの中高生、教職員の皆様のおかげでいろいろな仕事をさせてもらっています。
今のところ、まだ元気です。この学校が生徒にとってより良い学びの場となるよう、日々こつこつと、時には遊び心も持って、色々やっていきたいと思います。よろしくをお願いします。

福岡 健司 (数学科)



今、一番おもしろいのはホッケー。去年、NZで行われたマスターズワールドカップに出場しました。上手いかわないことばかり。でも、それがおもしろい。
次は古本屋。これも全く売れません。ご来店お待ちしております。

松井 陽政 (国語科)



元気にしていますが、時折屈く知人の他界がボディブローに響く年頃になってきました。ただし、最近いろいろなAIソフトにも挑戦し、事件や言葉の意味などを調べるGoogle検索とは違うPC利用法に目覚め、いわばタイパに挑戦しています。

松田 全功 (数学科)



この時代だからこそですが、「実験・体験を少しでも多く生徒のために」という思いで、教材研究の日々です。今年は中学も見ているので、天体望遠鏡で月でも観察してみたいな、と思っている今日この頃です。

柳谷 賢志 (理科)



立命館でお世話になり、9年目を迎えることができました。まだ務めて1桁の新参者ながら、120周年の記念すべき年を在校生や卒業生の皆様と共に盛り上げられたらと思います。

山本 圭太 (理科)



平成16年卒で社会科教員の吉田です。私は深草に学生時代を6年間、教員として3年間勤めた生粋の深草世代ですが、長岡京キャンパスも10年になり深草で過ごした時間よりも長くなりました。
最近は何世代のOB OGCの方と保護者と教員として再会するなど時代の流れを感じています。いつまでも若さを忘れず熱意に満ちた教育を心がけていきます。

吉田 達朗 (社会科)



立命館とは20年ぐらいい無沙汰ですので、少し長く書かせていただきますがお許しください。私は2005年に鬱発症、2007年に退職。当時は「やめ教師」の再就職はなかなかうまくいかず、できることを絞り出して機械(計測器)製造業の会社を創り現在に至っています。

45歳で挫折し行き詰まった時、大学時代を思い出し、捨ててきた大型ごみを改造して気象観測装置をつくることになぜか夢中になっていた経験にすぎたわけですが、その間には、京都私学の知り合いの先生から声をかけていただき市内私学の中学校や高校で授業をした年も数回ありました。ありがたいものです。

現在は0.1,2歳の3人の孫がおり「みかじい」などと呼ばせて喜んでます。昨年末から悪性リンパ腫を患い現在絶賛治療中ですが、元気にやっています(「元気」と言っているのかな?)

当時の思い出はすべて良い思い出として記憶に残っています。記憶ってすごいですね。クラス演劇で驚きの演出があり(詳細は文字にしないアレの落下演出です)、学校から(担任が知らないまま)指導が入ったこと、でも私は「すげー、よくやった!」と感動していました。

修学旅行グアムコースでは、島から本島に渡る船に無理にお願いして「全消灯」してもらいました(今では安全上無理なんだろうね)。生徒の皆さんにマリナナの満点の空(月も出ていないのに星のせいではのり明るい)をサブライズ経験してもらい、「シメシメ」とほくそ笑んでいたことなども覚えています。

現在、病気をきっかけに「生かさせていただくありがたさ」によりやく立付いた65歳。残る人生、周りの人や社会にどれだけお役に立てるのかな? と、改めて治療後の生き方を考えています。

三箇 山徹 (理科)



立命館に奉職して4年目、初めて担任をさせていただいたのが今年の幹事学年の方々です。卒業式の最中、「25年後この人たちが清和会総会の幹事かあ。みんな、自分、自分、学校はどうなっているんやろ」とぼんやりしていました。25年後、他の方はともかく自分はどうにもなっていないませんでした。

高1、2と担任をもった今年の高3のみなさんが幹事学年となるのが2050年。来春の卒業式で「25年後、みんな…どうなっているんやろ」と夢想する姿が今(6月)から想像できます。

山本 一之 (社会科)



今年の幹事学年のみなさん、ご苦労さまです。創立120周年とあいまって、いろいろと大変なことと思います。
私は、今年の3月で教師生活を終了しましたが、現在は120周年記念誌の校正のお手伝いをさせていただいています。記念誌の校正中、北大路・深草・長岡京の各キャンパスを経てきたものとして色々感じる事が多々ありました。立命館中高もこれからの10年、20年、30年……と続いていく中で、いろんな歴史をつくっていくことでしよう。なによりも生徒たちが生きいきと活躍できる場を作っているよう祈っております。

吉田 英紀 (社会科)

繋がる 広がる

～ 立命館中学・高等学校「120年」の歩み ～

はじめに 立命館「清和会」とは？

立命館中学校・高等学校は1905(明治38)年9月10日、立命館大学の前身である私立京都法政学校の付属校として「私立清和普通学校」という名称で誕生しました。「清和」という名称は校地が京都御苑の清和院御門に隣接していたことに由来しており、私たちの同窓会組織を「清和会」と称しているのも同様の理由です。



京都御苑清和院御門

(1)西園寺公望と『立命館』

学祖・西園寺公望は、1869(明治2)年に京都御所内の私邸に私塾『立命館』を開設しました。この私塾には新しい時代の建設に夢を持つ多くの若者が全国から集まり、活発に議論を行いました。この若者達の姿が不穏な動きとみなされ、『立命館』は差し留め命令を受け、閉鎖されました。その折、長崎にて留学準備中であった西園寺は、失意の内にフランスへ渡りました。約10年の留学期間を経て、西園寺はフランスの民主主義・自由主義・国際主義の思想の影響を大きく受けて帰国しました。



フランス留学中の西園寺公望



上／西園寺公望による「立命館」の扁額。西園寺20歳の書とされる。藤原公望と称しているのは西園寺家が藤原家の系統であったため(長岡京キャンパスと立命館大学衣笠キャンパスに所蔵)

左／学祖 西園寺公望

(2)中川小十郎と『立命館』

フランス留学を終えた西園寺は、外交官、オーストリア公使などを経て政治家としての道を歩みだしました。西園寺が文部大臣に就任した折、彼の公設秘書官を務めたのが本学園の創立者の中川小十郎でした。西園寺と共に京都帝国大学の創設に尽力した中川は、働きながら学ぶ、意欲に溢れる若者たちのための私学の設立を決意し、清和院御門に隣接した広小路に、1900(明治33)年に「私立京都法政学校」を、そして1905(明治38)年には「私立清和普通学校」をそれぞれ創立しました。創立時は文部省との関係で「法学」と「政治学」を専門とする「法政」学校として出発しましたが、中川の考える教育の理想は中等教育から大学までの「総合学園」でした。この理想に相応しい学校名は西園寺公望の『立命館』しかないと考えた中川は、『立命館』の継承を申し出て、西園寺から快諾を得ました。その後、文部省から財団法人「立命館」の創立許可を得て、1913(大正2)年に校名をそれぞれ「私立立命館大学」・「私立立命館中学」と改称しました。



上／創立者 中川小十郎

左／中川小十郎と北大路

Column 西園寺公望と『立命館』

西園寺の設立した私塾『立命館』と現在の「立命館」との間には学校組織としての直接的繋がりはありませんが、西園寺は終生、立命館への支援を惜しみませんでした。実弟の住友財閥当主の住友友純も学園に大口の寄付等を行いました。また西園寺自身も多数の貴重な書籍を学園に寄贈しています。それらの書籍は、現在「西園寺文庫」と名付けられ、学園の貴重な資料として保存されています。この他にも西園寺自身及び西園寺家から学園に贈られた品々は数百点にも及びます。本校のホッケーグラウンド横に設置してある「石灯笼」も東京の本邸「駿河台」に設置されていたものです。



深草キャンパスの中庭に設置されていた「石灯笼」は、深草学舎への移転を記念して、寄贈されたもの。現在は長岡京キャンパスに移設され、生徒たちを見守っている。

(3)「立命館中学」の新しい教育と北大路学舎への移転

「私立立命館大学」・「私立立命館中学」への校名の改称は、学園の組織及び教育活動に大きな改革を生み出しました。中川小十郎が京都帝国大学の創立に尽力した縁もあり、立命館大学に止まらず、立命館中学にも、教育学専門の小西重直教授や福島亦八教授をはじめ、多くの京都帝国大学の新進気鋭の先生方を迎え入れました。彼らは新しい教育理論を取り入れた教育活動(外国人講師による英語授業や懸賞論文の募集、成績上位者対象の放課後の英数特別授業、運動競技部の活動の奨励などを)を展開しました。

このような教師陣の充実と最新の教育活動による上級学校への進学者の増加や野球部・相撲部等の運動競技部の活躍が本校への入学志願者の急増を生み出しました。折しも、1922(大正11)年の大学令による「立命館大学」(旧制)への昇格・認可で広小路学舎が狭隘になったため、この年より小山上総町に新校舎建築(北大路学舎、現立命館小学校)を開始し、1923(大正12)年12月に全学年の移転が完成しました。



昭和初期の北大路学舎

(4)立命館中学校の発展と学校の複数化

第一次世界大戦や関東大震災後の経済不況による私立中学校への志願者の激減に比して、実業(商業)学校への志願者が激増しその影響を受けて1929(昭和4)年に北大路学舎に「立命館商業学校(昼間部)」を設立しました。

また、満州事変勃発後は、軍需産業をはじめとする経済界が活況を呈するようになり、勤労青少年へ教育の門戸を開くために、1937(昭和12)年には「立命館夜間中学校」と「立命館商業学校夜間部」を設立しました。その後も本校への入学志願者は増大し、1941(昭和16)年には上賀茂神山の地に「立命館第二中学校」を設立しました(1942(昭和17)年に北大路の「立命館中学校」を「立命館第一中学校」と改称)。

戦時色が濃厚となると、軍需生産のための技術者の需要の高まりにより、商業学校への入学志願者が減少し、中学校や工業学校への志願者が増加することになりました。このため、1943(昭和18)年には「立命館商業学校昼間部」を閉校して新たに「立命館第三中学校」を設置し、「立命館夜間中学校」を「立命館第四中学校」と改称しました。更に翌1944(昭和19)年には「立命館商業学校夜間部」を廃止して、「立命館工業学校」を設立しました。立命館の中等教育は戦争末期には一中、二中、三中、四中、工業の5つの中学を持つ学校に拡大していったのです。



立命館第二中学校

(5)新制中学・高等学校の出発と教育復興

1945(昭和20)年8月のポツダム宣言の受託は軍国主義日本の総決算であり、新しい平和日本・民主日本の出発点でもありました。教育界の民主化の一環として導入された新学制により、現行の小学校・中学校を義務制とする六・三・三・四の教育体系が確立されました。

学園においても、敗戦は戦時中の軍国主義的教育を一掃し、新しい民主立命館を創る出発点でもありました。1945年11月には瀧川事件(1933年)で学問の自由を守る戦いに奮闘した末川博を学長として迎え、民主的発展の基礎を固め、1947(昭和22)年には学長制度を廃止し、更に1949(昭和24)年には総長選挙制度を採用し、末川を先頭に「平和と民主主義」の学園として歩み始めました。

一方、中学・高校においては 新制中学への切り替えとして、1947(昭和22)年4月に北大路学舎の「立命館第一中学校」と上賀茂神山学舎の「立命館第二中学校」をそれぞれ新制「立命館中学校」・「神山中学校」として設立しました。また、この年に「立命館工業学校」を「立命館第四中学」に併合しました。翌1948年には新制高校として、「立命館第一・第三中学校」を「立命館高等学校」に、「立命館第二中学校」を「神山高等学校」に、「立命館第四中学校」は「立命館夜間高等学校」(1949(昭和24)年に「立命館高等学校定時制」と改称)として設立しました。北大路学舎と上賀茂神山学舎で再編された計「5校」がそれぞれ、戦後の混乱の中にあっても、ホームルーム活動、生徒会活動、課外活動を活発に行い、学校全体が自由で活気にあふれ、「平和と民主主義」の立命館の建設をめざした学校づくりに邁進したのです。



末川博総長



神山中学校

(6)中学校と高等学校の一本化を目指す「一貫教育」と自主活動の活発化

戦後の急激なインフレの進行は中高5校それぞれの財政的困難を引き起こし、教育の充実をめざして「中高一本化」の方針が推進されるようになりました。1951(昭和26)年には北大路学舎の中学校と高等学校が一本化され、翌1952(昭和27)年には神山中学校と高等学校が北大路学舎に吸収されました。同年4月には立命館中学校・高等学校校長の松尾一徳が立命館高等学校定時制の校長も兼任することになり、全面的な中高一本化が完成しました。このような中高一本化によって、学校の組織も一つにまとまり、6ヶ年を見通したカリキュラムや自主活動の育成が「一貫教育」の観点から計画されました。

生活指導の在り方についても改革が進められ、生徒の自主性を尊重する現在の立命館中学校・高等学校の出発点となったのが、この時期と言えます。その中でも特筆すべきは、高校生徒会と教員が双方の意見や要求を交渉する場としての「学内協議会」が、1949(昭和24)年に発足したことです。新聞部の「立命館タイムス」の発行、弁論部の活躍等がこの時期の生徒の自主活動の典型例として挙げられます。1972(昭和47)年に高校生徒会が制服廃止と私服制度を獲得したのもこのような自主活動充実化の一端と言えます。



立命館タイムス

(7)男女共学・深草学舎への移転の実現

1982(昭和57)年8月、総長からの諮問を受け、正課・課外を含めた幅広い教学充実のための教育施設拡充の必要性から「学舎移転」の計画が開始され、同時に社会的要請を背景とした「男女共学」化の動きも本格化してきました。

1986(昭和61)年10月に正式に深草への移転が決定し、翌年2月より校舎建設が開始されました。しかし、学舎完成が予定より遅れたため、1988(昭和63)年4月には北大路学舎において、中高それぞれの1年生で男女共学が開始されました。7月に新キャンパスへの移転が行われ、新天地での学校生活が始まりました。

(8)深草学舎前期の教育課題

深草学舎移転後、本校では、「自己表現力」・「情報活用能力」・「異文化交流と英語力」の育成を「三本の柱」に据えて、それぞれ以下のような取り組みを行ってきました。

【A】「自己表現力」育成の取り組み

深草学舎移転前より、中学全学年に「読書」、中学3年に「卒業研究レポート」、高校3年に「特別講座(特論)」等を通して、自己表現力の育成に務めてきました。移転後はこれらの取り組みに加え、高校2年の「国語表現(半学級にて実施)」では、班ごとに様々な文章やCMなどを素材に、その意図や背景の分析に取り組み、学年末には自分でテーマを決め意見文をまとめた『深草から未来』などの発行を行ってきました。



卒業研究レポート

【B】「情報活用能力育成」の取り組み

1990年代初頭より、コンピュータを使っての調査・研究・発表をする力が、中高生の学習にも極めて重要な課題となって来ました。

本校では、早期より、「情報教育推進委員会」を中心に「情報教育のカリキュラム化」、「情報機器の整備と充実」そして、「情報教育指導体制の確立・充実」について議論と実践を進めてきました。

「情報教育のカリキュラム化」については、中学1年生から高校3年生それぞれに「情報講座」を設置、そして各教科や課外活動でも情報ネットワークを駆使し、それぞれの目的に応じた取り組みを展開してきました。「情報機器の整備と充実」については、コンピュータを5教室に約240台設置、それぞれ、最新の高速ネットワークを設けました。また、1996(平成8)年7月には、「コミュニティー21(通称:新館)」を建設し、情報教室の拡大・拡充をはかりました。



深草校舎

更には、情報教育専門教員の複数採用、全教員へのPC貸与、各教科における情報教育の活用法の研修などを通して、「情報教育指導体制の確立」に務めてきました。

【C】「異文化交流と英語力」の取り組み

1980年代半ばより全国的に「国際化」が叫ばれるようになり、1988(昭和63)年には立命館大学に国際関係学部が新設されました。中高においても、生徒の異文化理解とそれを支える英語力の増進・国際感覚の育成を図るために、「帰国生徒入試制度の導入」、「ネイティブ英語科教員の任用と英語教育の改革」、「海外教育提携校及び生徒相互交換留学の一層の拡大」に全校を上げて取り組みました。

帰国生徒入試制度は、帰国生徒が海外生活で得た外国語能力、多様な価値観、自主・自立の精神を本校生徒が取り込むことと、帰国生徒のさらなる飛躍を図るとともに、学校全体の国際意識の涵養や国際理解の展開を意図する目的で導入されました。(この入試制度は中高とも1987(昭和62)年度入試より本格的に実施され、高校は1997(平成9)年、中学は2003(平成15)年まで継続しました。)

1986(昭和61)年のネイティブ英語科教員の採用を契機として、半学級による英会話授業、日本人教師との「team teaching」等の多様な先進的な授業形態が導入され、生徒の実践的語学力の育成や生きた異文化理解を促進してきました。これらの授業や活動を通して獲得された力は、英語検定やTOEFLをはじめとする各種の資格取得、海外生徒と学術交流、中学3年時のニュージーランド研修(2000年～2004年)やオーストラリア研修(2005年～現在)等において発揮されています。

より一層の国際化・異文化理解を深めるために、1990(平成2)年3月、生徒の相互交換プログラムの一期生として、カナダのプリティッシュ・コロンビア州の2つの高校に、30名、翌年の3月には15名、高校3年生を、それぞれ派遣しました。その一方、プリティッシュ・コロンビア州の高校からの派遣生徒の受け入れもあり、本校の留学生の受け入れの態勢も整っていきました。このような海外校との交流はさらに恒常化し、世界中の学校との交換留学が展開され、本校の国際化が一層進化していきました。今日のSuper Science High School(SSH)やSuper Global High School(SGH)に代表される国際的な取り組みも、このような本校の国際化と英語教育の充実を土台として展開されているのです。

(9) 深草学舎後期の教育課題～サイエンス教育の推進と長岡京学舎移転～

2001(平成13)年、文部科学省は、科学技術・理科・数学教育の分野において優れた教育プログラムや先進的実践を行う学校を「スーパー・サイエンス・ハイスクール(SHS)」に認定するとの構想を発表しました。折から本校では、新学習指導要領を踏まえた学校改革を推進しており、理数系への進学者が多い状況や立命館大学理工学部との連携も視野に入れ、このSSH事業への参加を申請し、第1期(2002年度～2004年度)の指定を受けることが出来ました。また、中学校においても2003年度、2004年度に文部科学省から「理科大好きスクール」の指定を受け、「サイエンス・ポスター・セッション・コンテスト」をはじめ、多様な科学教育に力を入れてきました。

上記のような「サイエンス教育」「国際理解教育」の推進、「小中高一貫システム」確立に対応するためのHR教室、実験設備、語学教室・情報教室をはじめとする諸施設の増設・拡充が不可欠でしたが、深草学舎地域における厳しい景観保護法のために、それらが叶わず、新天地を求めた結果、2014(平成26)年7月に長岡京市の現校地に移転しました。



ありがとう深草



長岡京キャンパス

(10) 立命館「清和会」の歩みとその役割

立命館中学校・高等学校は、1905(明治38)年の誕生から2006(平成18)年の立命館小学校創立に至るまで、別表(「立命館中学校・高等学校の歩み」)のように幾多の併設校の創設と校名変更を行ってきました。清和会はその全ての学校の卒業生で組織されている同窓会の団体です。

本校が創立されて6年後の1911(明治44)年、卒業生有志と中学校校長・教員が集い、同窓会の設立を提案・論議し、同年の11月26日に約400名を集めて第1回「清和会」総会を開催しました。以後、学校の発展と共に同窓会の活動も会誌「清和」の発行や全国各地の清和会支部での活動等を通して活発化しました。戦後、1949(昭和24)年1月に立命館「清和会」は再建され、現在に至っています。清和会は、114年の歴史の中で一貫して、世代を超えた卒業生の繋がりを深め、互いに応援しあうと共に、母校の発展の支援に務めてきました。立命館中学校・高等学校は、120年の歴史の中で、3度の校舎移転と大規模な学校施設の増・改築を行ってきましたが、清和会はその際の財政的支援の中心的役割を果たしてきました。

現在では、中学校における「職業体験」での生徒受け入れや「進路講座」「サタデーボックス」、留学生対象の「日本文化体験講座」をはじめとする講師派遣や「浴衣」の寄付等、多種多様な支援を行ってきました。また、清和会から選出された評議員・理事が小・中・高の教育現場にとどまらず、大学を含めた立命館学園全体の発展に大きく寄与しています。



立命館小学校



留学生対象の日本文化体験講座



進路講座
1991(平成4)年卒 岩永先輩



サタデーボックス
1995(平成7)年卒 以西先輩



活け花教室
1997(平成9)年卒 松岡先輩

(11) 世代を超えてつながる「清和会」の諸活動

【卒業記念品の贈呈と清和会木村賞授与】

高等学校卒業時に卒業生全員に清和会入会記念品の贈呈を行っています。また、正課・課外活動での優秀な成績者に卒業式当日に清和会木村賞を授与し、表彰します。

Topics 清和会木村賞授与とは？

清和会木村賞は1951(昭和26)年～1979(昭和54)年まで清和会会長を務められた故木村嘉一氏(旧制中学1913年卒)のご遺族から寄付された基金から贈られています。

【清和会の広報活動】

在校生、卒業生、現役・退職教職員をはじめとする立命館小学校・中学校・高等学校に関わるあらゆる人々の活躍を広報するため、学校の広報誌である「遊目」や清和会のHP・Facebook等を通じて広く内外に情報を発信しています。

【卒業生の同窓会活動支援】

各学年やクラス、クラブのOB・OGが開催する同窓会にも活動費の援助を行っています。

高等学校の卒業生は、大学卒業時に常任幹事・幹事の皆さんが中心となって、学年全体の同窓会を開催するのが恒例となっています。このような企画にも活動費を援助してきています。それぞれ事前に清和会事務局までご連絡ください。

【卒業生と恩師が集う総会・懇親会】

「清和会総会・懇親会」は、高等学校卒業25周年目に当たる学年が、開催の世話役として企画運営の役割を担います。毎年多くの卒業生と現役・退職教職員が集い、旧交を温めます。この総会・懇親会には国内外を問わず、様々な分野で活躍されている方々も含め、人生・社会の先輩方が多数参加されます。これらの先輩たちと親しく接し、社会人としての交友関係が生まれる場でもあります。



昭和47年卒 卒業生同窓会



第113期 清和会総会・懇親会

～2025年(令和7年)3月卒業 新任幹事の紹介～

初めまして、令和7年度卒業常任幹事の大吉一花と申します。高校では生徒会執行部に所属し、文化祭や体育祭などの行事運営に携わってきました。現在は、立命館大学アメリカンフットボール部バンサーズで学生トレーナーとしてチームの日本一に貢献できる日々奮闘しております。練習や試合では、中高で様々なバックグラウンドを持つ人と関わってきたことや生徒会長として周りを見るよう努めてきたことが活きていると感じています。

今後は、清和会の一員として、微力ではありますが立命館中高をサポートできればと思っています。幹事の5人の同級生と協力して活動に関わってまいりますので、これからよろしくお願ひいたします。



令和7年卒 常任幹事 大吉一花さん

常任幹事: 大吉一花 幹事: 望月 勇吾・榊原 珀・道家 凛・筒井 映佑・井上 智棋

立命館中学校・高等学校の歩み



地図と写真でみる立命館中学校・高等学校のあゆみ

1 立命館
1869年学祖西園寺公望公が京都御所の私邸に私塾「立命館」を開設しました。
1941年上賀茂神山の地に立命館第二中学校を設立。
戦後の学制改革のため、京都府からの委託を受け、立命館神山中学校・高等学校と改称し、地域の男女生徒を受け入れた。1952年に立命館中学校・高等学校に統合しました。

2 広小路学舎 1905年9月11日～1923年
大正二年七月発行 京都市街全図
立命館学舎開校之地
立命館中学校・高等学校の前身である「清和普通学校」は、1905年9月11日に「私立京都法政学校 (現：立命館大学)」の付属校として設立され、1924年に北大路学舎への移転まで大学と同じ敷地内にありました。

3 北大路学舎 1923年～1988年
1923年に広小路学舎から移転。1988年の深草キャンパス移転まで、戦前は、立命館第一中学校 (旧制立命館中学)、立命館第三中学校、立命館第四中学校、立命館工業学校の生徒、戦後は新制の立命館中学校、立命館高等学校、立命館夜間高等学校 (のちの立命館高等学校定時制) の生徒が学び、巣立ちました。

4 深草キャンパス 1988年～2014年
1988年に京都市伏見区に校地を移転。
大きなグラウンドを持つ学校となりました。移転を期に「男女共学」となりました。

5 長岡京キャンパス 2014年～
立命館中学校・高等学校 深草キャンパス
立命館中学校・高等学校 長岡京キャンパス

昭和39年卒業

岡野 益巳

傘寿を迎えた2025年、中学高等学校が創立120周年小学校が開校20周年というおめでたい年に、皆様と共に色々なイベントに参加しお祝いできました事を感謝申し上げます。立命館の飛躍と発展をこれからも祈念いたします。想い出は永遠の宝箱！

昭和41年卒業

佐竹 力純

高度成長を支えてきた私達団塊の世代、傘寿に向けて年に数回、飲み会、琵琶湖クルージングに人生100年をめざし頑張っています



昭和42年卒業

山本 勝保

漸く喜寿の年齢を迎え、周りにもボチボチ空き出始めましたが、実弟との家業不動産関連経営の他に、まだまだ趣味の鮎釣り・面打ちや役所と共働地域活性化活動、ボランティア活動にと、今も家内が少し嫉妬？！する程のペースで頑張れる自分と家内に感謝

昭和47年卒業

水田 雅博

男子ばかりの学校にテニスのラケットを持ち、烏丸車庫まで市電で通った日々を懐かしく振り返りながら、同級生の西田俊博君と清和会の副会長を務めています。今、学校法人立命館評議員・スポーツフェロー会長・ロータリー立命会など立命館漬け…誇ります。



昭和56年卒業

伊坂 忠夫

立命館中高で出会い、喜怒哀楽を共にした仲間がかけがえのない存在です。数十年ぶりにあっても変わらぬ特別な仲間です。また、清和会で後輩たちとつながりを持つのも大変有り難いです。さらに大学教員として、後輩と一緒に研究できるのも嬉しい限りです。

磯野 淳

還暦も過ぎましたが、いまだに恩師の先生方、同級生、ソフトテニス部の先輩・同期・後輩と交流を深めています。この歳になると立命館に通ったことが大切な人生の財産だと喜んでおります。

昭和60年卒業

中野 伸一

中学・高校と大変お世話になりました。北大路時代が、とても懐かしいです。ここ10年間の立命館の大発展を、心よりお慶び申し上げます。

平成3年卒業

武田 敦

当番学年会の皆さん、第114期立命館清和会総会・懇親会の開催おめでとうございます！奮闘に感謝です！（事務局担当副会長）



西畑 圭策

学校卒業後、お会いする方との会話の中で立命館出身の方とお会いさせていただいた際に先輩方、後輩方問わずに会話が弾むことが多くあります。ご縁を大切に今後とも成長出来ればと考えております。

藤井（柳生） 千亜紀

人生背負って大はしゃぎ。平日お勤め休日落語。立の家やよいと申します。



平成4年卒業

日種 将貴

当社は企業様の発展に寄与する生損保の提案に努めております。個人的にはIFAとして投資信託の提案もしております。



平成6年卒業

坂田 周平

「未来を信じ 未来に生きる」ことの困難さ。だからこそ、この言葉が放つ一層の輝きを思う毎日です。

矢野 由紀子

6月の120周年記念の中高合同芸術祭で、吹奏楽部の後輩・先生と共演させて頂きました！在校生とも一つになれて、感激でした！



平成6年卒業

吉川 延亮

毎年楽しみにしている清和会総会・懇親会。恩師との再会・先輩との交流・同窓生との再会。平成13年卒当番学年の皆様、ありがとうございます。感謝。

平成8年卒業

久岡 真希子

創立90周年の時、高校生でした。あれから30年。この間ずっと母校と関わるのは清和会のお陰です。ありがとうございます。



平成9年卒業

辻（百武） 由貴

立命館で同級生の皆さんと出会ってから35年が経ちました。学生時代の友人とこんなに長く縁が続いていることに感謝しています。最近音楽活動を始めました。またどこかで皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。

平成10年卒業

原 尚司

このような素晴らしい機会をご準備くださった幹事学年の皆様のご尽力に、心から御礼申し上げます。

平成11年卒業

小山 雅由

今日という日が、また新しい思い出の始まりになりますように。準備を担ってくださった幹事の皆様へ敬意を込めて感謝を、そしてこのひとときをともに過ごして下さった同窓の皆様、先生方にも、心より御礼申し上げます。

中村 拓平

コロナ禍で大変でしたが、湯葉弥7代目を継ぐことができました。皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。

平成12年卒業

今江 元紀

今年も幹事学年の皆様、大変お疲れ様です。この会が立命館創立120周年を機に、改めて同窓生同士を中心に、先輩方や後輩の皆さんとも、今まで以上の立命館ネットワーク強化に繋がればと思っています。また、現役支援にしっかり繋がるような取り組みができれば！ご協力させて下さい！

南部 由佳

昨年度、幹事を務めさせていただいたことがついこの間のこのように感じられます。今年もみなさまにお会いできることを楽しみにしています。ここまで準備等ご尽力いただいた幹事学年のみなさま、ありがとうございます！

藤原（平石） 式子

幹事学年の皆様、ご準備ありがとうございます。中高の思い出は尽きません。



米田 真知子

昨年は、たくさんの仲間や恩師に再会できて、一瞬であの頃に戻ったような気持ちになりました。たくさん笑顔と元気をもらい、本当に幸せて、たく残る一日でした。今年も楽しみにしています。幹事の皆様、ありがとうございます。

平成13年卒業

当番学年

平成13年卒 吹奏楽部有志

自由な校風のもと、多くを学び、かけがえのない経験をすることができました。素晴らしい先生方や仲間との出会いに、改めて感謝しています。今日は懐かしい皆さんと再会できることを楽しみにしています。

内田 真利子

中国で仕事していますが、世界各国立命館OB会があり、立命館出身であることを誇りに思います。立命館OBというだけで、年代関係なく、当時を思い出し共通の話題を楽しむことができます。また、OBの方々が多様な分野で活躍されており、自身への刺激、原動力にもなっています。

平成13年卒業

当番学年

奥（森岡） 美帆

本誌の編集に微力ながら関わらせていただき、懐かしい先生や友人たちの近況を知ることができて嬉しく思います。深草、そしてホッケー部で過ごした三年間は私の「今」を形づくる生涯の宝物です。

小倉（片山） 優香

高校時代、深草で過ごした日々は、何にも代え難い宝物であり、あの時代の経験が自身の軸となっています。先生方や友人との出会いに感謝をしつつ、今後も関わりを大切にしていきたいです。

勝村（榛葉） 麻里

当番学年として関わる機会をいただき、懐かしい仲間と過ごす中で、高校時代の思い出が今も大切な宝物だと改めて感じました。これからこのご縁を大切にしていきたいです。

金沢（藤井） 優香

創立120周年おめでとうございます。この記念の年に幹事学年を務めることになり、中高以来の再会や、大学時代の絆まで深める事ができました。貴重な機会を頂いたことに感謝し、これからも大切にしていきたいと思ひます。

河合 正明

当番学年として、総会・懇親会のお手伝いをさせてもらっています。卒業以来やり取りする同級生もいますが、そんな会ってないことが嘘のように感じられ、同級生ってすごいなと思っています。当日もたくさんの同級生に会えるのを楽しみにしています。

杉山 顕憲

幹事学年として微力ながらお手伝いさせていただきました。立命館中学校、高等学校の120周年という節目に友人たちと携わることができありがとうございます。当日懇親会でみなさまにお会いできることを楽しみにしています。

竹田 健二郎

深草にあった立命館中高を卒業して25年。今でも友人たちと過ごした日々を、先生方から多くの事を学んだ日々を、鮮明に覚えています。みんなで集まって、みんなであの時に戻りましょう！

平成13年卒業

当番学年

竹田 真司

革ジャンを着て立命館高校を卒業しましたが、今も相変わらず革ジャンを着ています。



谷 清人

40歳を過ぎこれまでにいろいろな経験をしてきました。今一度人生を振り返って思えることは感謝と謙虚な気持ちはいつまでも持ち続けたいと思います。今回もこのような素晴らしい場を管理・運営して頂いている皆様に感謝を。大勢の同級生と会えたことに感謝。

田福（松崎） 雅子

高校時代、自由な校風のもとでさまざまな経験を重ねられたことは、今も私にとって大切な財産となっています。幹事学年として、こうして同窓生のみんなとつながれる機会があることをとても嬉しく思っています。

萩原 清孝

寄り道、脇道、回り道。しかしそれらも全て道。

畑中（山中） 乃梨子

創立120周年という記念すべき年に、幹事学年としてお手伝いができたこと、それに伴い懐かしい先生方や同級生、様々な清和会会員の皆様と関わる機会を多くいただけたことに感謝申し上げます。とても充実した1年間でした！皆様、ご協力ありがとうございました！

三井 貴浩

中学・高校の6年間を過ごした深草の学び舎が、今は長岡京に場所を移し、寂しさを覚える反面、後輩たちが新しい学び舎で立命館の伝統を受け継いでくれていることを嬉しく思います。今の自分があるのは、当時の先生方や同じ時間を過ごした仲間達のおかげです！

宮城（服部） 早映子

高校時代に出会えた友人といまでも仲良くさせていただいていることをとても嬉しく感じます。楽しい思い出も黒歴史もみんなで振り返って笑いとばしたいですね。これからも卒業生同士よろしく願ひいたします。

平成13年卒業

当番学年

安井 亜希

こうして、卒業しても集える機会に感謝いっぱいです。今ここにいられるのは、立命と出逢って下さった方のお陰様です！



山本 佳佑

昨年の総会から、久しぶりに同級生とやり取りができ懐かしい気持ちになりました。遠方在住なのでこうして京都に帰ってみんなと会える機会が頂けたこと、ありがとうございます。

山本 隆平

幹事学年として一年間携わらせていただき、たくさんの先生方と同窓生に再会することができました。また、先輩方にも大変お世話になり、改めて清和会の伝統を体感。貴重な経験をさせていただいたと感じております。ありがとうございました。

若山 剛士

高校を卒業してから25年後に幹事当番が回ってくるという清和会の仕組みの絶妙さ！皆さんとの繋がりはあの頃にも増して大切な財産となっていることを痛感しています。今年の総会・懇親会が皆さんにとって充実したのになりますように！

平成14年卒業

次年度当番学年

平成14年卒学年会一同

立命館中学校・高等学校創立120周年おめでとうございます。来年度、当番学年となります平成14年卒学年会です。第114期立命館清和会総会・懇親会の盛会を祈念するとともに、来年度も皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

内山（福田） 遥

高校の3年間で私の人生の中で一番輝いていて、本当に良い仲間に出会えたと思っています。この清和会を通じて、その時の絆がずっと繋がっていることを改めて実感しています。これからもみんな元気で！お会いできるのを楽しみにしています！

菊地 泰子

卒業して以来会っていなかった友達でもあの頃のように会話が弾み楽しいひとときを過ごせる友達。立命館でのこの出会いは、ずっと大切にしていきたいと思っています。立命館の素敵な歴史を守りつつ、次の世代・新たな未来へ繋いでいきたいと思っています。

平成14年卒業

次年度当番学年

高月 衣子

立命館で過ごした中高6年間は滋賀の片田舎出身の私の世界をグッと広げてくれた、キラキラとしたかけがえのない時間でした。個性的な同級生、先輩、後輩、先生方と清和会を通じて再会できたことを嬉しく思っています。

田島 吉浩

立命館との出会い、そこで出会ったたくさんの人とのつながりが、今の自分を形作ったと思います。清和会を通じて、また同級生たちと集まる機会をいただけたことに感謝します。

鶴丸（熊谷） 瑠衣

来年当番学年ということで、久しぶりに同級生たちと会い、企画の相談をする中で、学生時代と変わらぬやり取りを懐かしくうれしく感じています。立命館中高で過ごした時間は財産であり、これからも友人たちとのつながりを大切にしていきたいです！

前田 愛

今の私があるのも、立命館での貴重な時間と経験を頂いたおかげです。高校を卒業して25年を迎えようとしている今、改めて先生や仲間との出会いに感謝しています。このご縁を宝物にこれからも邁進していきたいと思ひます。ありがとうございます！

平成23年卒業

西村 昂

自由な校風のおかげで、仲間たちと自発的に活動してきた学校生活でした。この自発性は今の時代に必要な能力だと思います。卒業を迎える皆様も、臆することなく世界に羽ばたいてくださいな。

平成30年卒業

太田 格之進

立命館中学校、高等学校設立120周年おめでとうございます。

令和7年卒業

春日 京

おめでとうございます！たくさんの先生方や友人に出会えて素晴らしい学生生活を送れました。卒業して1年経っていますが、小学校から立命館で過ごした毎日は宝物です。これからも立命館の益々の発展を願っています。

本年もたくさんのメッセージを賜り 有難うございました

岡野 益巳 (昭和39年卒)

おかげさまで
創業 **100** 年 ありがとうございます



令和6年竣工物件



総合建設業
OKANO 株式会社 **岡野組**

佐竹 力總 (昭和41年卒)
洋治 (平成5年卒)

ここに京のおもてなしがあります

京懐石 美濃吉は今日まで300有余年、10代の永きにわたり商いをさせていただいております。2022年12月「京料理」は国の登録無形文化財に登録されました。世界に誇る日本の食文化を味わって下さい。



創業享保元年
京懐石 美濃吉 本店

竹茂楼



京懐石 美濃吉 公式HP

齋藤 茂 (昭和50年卒)



いま世界で
楽しまっているソフトは
〈トーセ〉かもしれない。

トーセは、エンタテインメントコンテンツを開発する
日本最大級の
企画提案型、受託開発企業です。



株式会社 トーセ

新卒・キャリア積極採用中

伊坂 忠夫 (昭和56年卒)

立命館大学の教員をしています。BKCに新しい拠点が出来ました。CIVICでは「身体圏研究」という新学術領域に挑戦し、ウエルビーイング実現に向けた研究を進めます。GICは社会実装、スタートアップの拠点となります。是非立ち寄りください。



CVIC GIC
研究プロシユト 株式会社
立命館大学 立命館大学 立命館大学 立命館大学
立命館大学 立命館大学 立命館大学 立命館大学

西田 俊博・水田 雅博 (昭和47年卒)

私達は、立命館中学校入学から数え、今年が立命館59年生。創立120周年の母校の歴史の半分を共に過ごしたことになります。これからは「古稀を過ぎても毎年同窓会」と銘打ち、8月17日に音楽科の恩師の小林正樹先生をお迎えし、スパニック・パロクの洋館「東華菜館」【于修忠氏(H1年卒) 于修海氏(H4年卒)】で開催しました。

米寿とは思えない見事な声量の小林先生のリードで校歌斉唱、閉会のグレーター立命を声高らかに謳い、「古稀を過ぎてもなお青春時代」を熱く語り合った1日を過ごすことが出来ました。



昭和47年卒
卒業生同窓会
東華菜館にて
2025年8月17日

奥村 浩二 (昭和55年卒)



磯野 淳 (昭和56年卒)

真宗大谷派 新道寺 新道寺は昭和初期に京都壬生の地で「新道布教所」として設立され、以後、親鸞聖人のお念仏の教えを広めてまいりました。これからも少しでも多くの人の心の安寧を願って活動してまいります。



1983年卒業 還暦同窓会
幹事 竹内 裕貴 (昭和58年卒)

1983年卒業の264名、去る3月8日に還暦記念同窓会をACEホテルにて開催しました。恩師5名(お元氣!)を含む80名の参加で、賑やかに再会を祝いました。170名を超えるLINEグループもでき、今後は毎年集うかもです。同窓生バンザイ!!



高安 慶光 (昭和62年卒)

左京区一乗寺でラーメン店をしています



麻田 篤志 (平成3年卒)

フジサンオート
<https://fujisanauto.com/>

フジシステム マツハ車検 スーパー乗るだけセット

久世店 ☎075-932-3624 京都市南区久世中久町699-3
 宇治店 ☎0774-24-8154 宇治市小倉町久保16

マツハ車検
 京都久世店 ☎075-921-5567 京都市南区久世中久町699-3

フジシステム&スーパー乗るだけセット
 カドノ店 ☎075-321-0855 京都市右京区カドノ大路高辻北西角

藤井 千亜紀 (平成3年卒)

「立の家やよい」という名前で素人で落語しています。ご用命あればどこでも行きます。三味線、ピアノ、笛など音曲もやります。ぜひ。

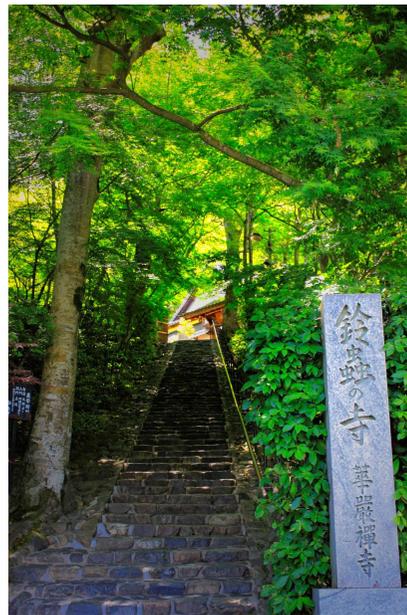


田村 良孝 (昭和61年卒)
炭火居酒屋 田村よしとか

2003年にオープンした焼き鳥店です。61年卒の同級生の他、清和会会員様にもご来店いただいております。



桂 紹寿 (平成元年卒)



西畑 圭策 (平成3年卒)

清和会の先生方、先輩方、後輩方とお会い出来るご縁を大切にさせていただきながら、運輸・倉庫・3PLの総合物流企業を営んでおります。お気軽に話しかけていただければ嬉しい限りです。



三宅 剛 (平成3年卒)

SCRATCH and real upper nine.



芦田 純 (平成4年卒)

株式会社 トラヤ制服店 代表取締役

芦田 純 (平成4年卒)



矢野 由紀子 (平成6年卒)

ビックホームズ株式会社 取締役
エグゼクティブアドバイザー



センチュリー21ビックホームズ

〒536-0005
大阪市城東区中央3丁目1番3号
TEL: 06-6786-3121 FAX: 06-6786-3125

上村 時子 (平成8年卒)



京都府山科区 小規模保育園
提携企業様募集
「子育てしながら働ける」職場づくりを応援します

2025年度よりスタート
らくらく手ぶら登園
保護者の皆さまのご負担を少しでも軽減できるよう
おむつ・お着替え・お食事セット・お布団など
保育園生活に必要なものは、園でご用意しております。

柔軟な保育時間
シフト勤務や短時間勤務にも対応しており、
パートタイム従業員の方にもご利用いただけます。
ご家庭やお仕事の都合に合わせて、通園が可能です。

病児保育室 OLIVE 併設
お子さまの急な体調不良でも安心してお預けいただけ
る環境を整えております。登園後の発熱も症状に
応じてお迎えまでお預かりできます。



上田 (田宮) 静香 (平成11年卒)

結婚相談所
sizuブライダル

代表カウンセラー 上田 静香



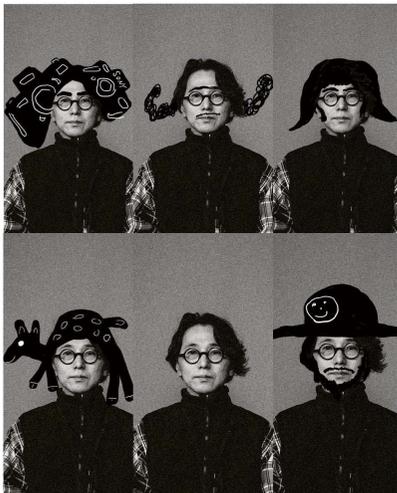
- 会員数業界NO.1 (9万人以上) 日本結婚相談所連盟 (IBJ) に加盟
- 少人数制 (会員数制限) きめ細かなサポートによる高い成婚率
- 婚活・婚活・子育て・キャリア、現役世代の専任カウンセラーが対応
- 仲人同士のネットワークで独自のイベントやご紹介有
- 入会費無料・成婚祝い金・婚約仲人費・プロモーション数贈賞・IBJ AWARD (プレミアム部門) 等、各受賞歴有

〒520-0801
滋賀県大津市Izの浜4-4-1
TEL: 080-5706-4150
<https://sizubridal.blog.fc2.com>



ながの しゅうすけ (平成4年卒)

信頼と実績の
Photo NAGANO / STUDIO FRESH



吉川 延亮 (平成6年卒)

コツコツ未来の基盤をつくる



取締役社長 吉川 貴之

吉川 延亮 (H6年卒)

〒616-8424
京都市右京区嵯峨釈迦堂門前
南中院町16番地
TEL.075-871-4023 FAX.075-861-3434
<https://yoshikawagumi.info>

杉本 周平 (平成10年卒)



イラスト/いるま (いばらぎや)

第114期立命館清和会総会・懇親会
ご盛会を心よりお喜び申し上げます

けいしん
京津法律事務所
代表弁護士 杉本 周平
(滋賀弁護士会所属)

〒520-0051
大津市梅林1丁目3番25号
大津駅前1st森田ビル2階
電話 077-526-2330
FAX 077-526-2331

小山 雅由 (平成11年卒)

学生時代に過ごした、恩師や旧友との出会いと学びの
おかげで、家業に入って以降も楽しく仕事をしておりま
す。清和会をきっかけに仕事の輪も広がりました。今後も
よろしく願います!



中川 龍也 (平成11年卒)

当事務所は、ご依頼者様に迅速かつ確かなサービスを提供することを最優先に業務を行っております。

ご依頼者様が不安に感じられることのないよう、常に連絡が取れる体制を確保し、応答・報告を迅速にすること、常に法の変化に対応してご依頼者様に確かな提案をするよう心がけております。



中川龍也法律事務所

〒612-8053 京都市伏見区東大手町 756
桃山SKビル 4F



今江 元紀 (平成12年卒)

FM802
RADIO CRAZY
2025
EXPOイヤーの総決算!
史上最大の4DAYS!!
12.26Fri 27Sat 28Sun 29Mon
インテックス大阪
radiocrazy.fm

藤原 (平石) 式子 (平成12年卒)

ご盛会をお慶び申し上げます



藤原・橋本法律事務所

弁護士 藤原 式子

〒604-0857

京都市中京区烏丸通二条上ル崎屋町263

京楽丸ビル5階

TEL:075-256-3721

FAX:075-256-3756

<https://fuji-hassy.jp/>

平成13年卒 吹奏楽部有志一同

一音入魂

呼吸を合わせ、心を重ね、
仲間とともに音楽を奏でた日々。

今はそれぞれの道を歩んでいても、
あの一音に込めた想いを、
私たちは忘れていません。

本気で向き合うことの尊さを、
私たちは立命館で学びました。



平成13年卒 吹奏楽部有志より感謝を込めて

中村 拓平 (平成11年卒)

天保元年創業

京ゆば **湯葉弥**

取締役社長 中村 拓平 (H11年卒)

徳岡 瑛 (平成12年卒)

恬淡寮では庭を臨む舞台を備えた京町家で文化・芸能・学術に親しんで頂けます。恬淡な(あっさり気軽な)心持ちでお運び下さい。

- ▶書道、茶道、狂言教室開講・生徒募集中
- ▶サークル・クラブ等の活動場所、発表会、交流会、学会・勉強会、撮影・収録、展示場等

公式HP
Instagram
てんたんりょう・京町家の文化サロン
恬 淡 寮

金沢 (藤井) 優香 (平成13年卒)

個々を認め合う自由な立命館の精神が生き、フランスでの10年以上にわたる充実した日々は、数多くの素晴らしい出会いに恵まれ、かけがえのない経験を積むことができました。そのご縁は帰国後も広がり、現在の音楽活動に結実しています。



ピアニスト 藤井 優香

ピアノ演奏依頼・レッスンなどのお問い合わせはInstagram DMIにて承っております



YUKA.KANAZAWA.FUJII

谷 清人 (平成13年卒)

高校時代ともに過ごした仲間と思い出は一生の宝物です。この時の経験が自身の人間形成の大元になっていると実感しています。これからも立命館卒に恥じぬ生き方をしたいと思っています。皆様とお会いできること、とても楽しみにしています。



高校ラグビー部OB会

2024年全国大会京都府予選3回戦進出、2025年チャレンジリーグ優勝と近年は好成績をおさめています！
中学はクラブチームが発足しさらなる活性化を図っています！



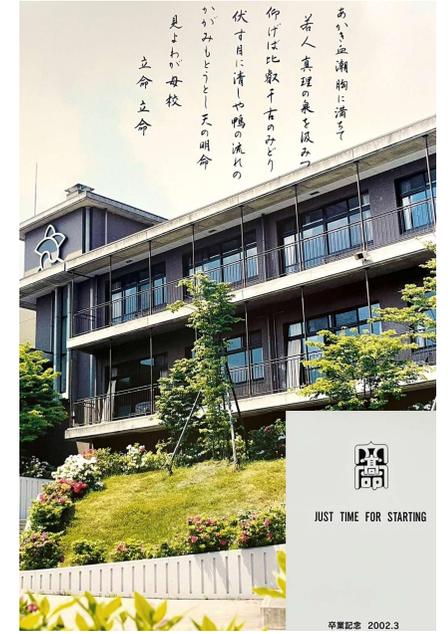
宮城 裕美 (平成13年卒)



森下 大輔 (平成13年卒)



平成14年卒有志一同



畑中 (山中) 乃梨子 (平成13年卒)



貴方の『お気に入り』を見つけて
日々の生活にHAPPYな彩りを♪



minne shop
ハンドメイドアクセサリー



@FAV_ACCESSORY.N

村上 真一 (平成13年卒)



村上紙業株式会社は「紙」とつければ全て揃う、紙の専門会社です。
TEL.075-312-4551 〒615-0803 京都市右京区西京極南庄境町39番地

安井 亜希 (平成13年卒)

リクルートでの人事経験ののち、コーチングや企業研修講師を経て、現在「やまと式かずたま術」という教育手法を用いた「日本の和の心を大切に、自分らしく生きる手立て」を探索中です！ 原点は常に立命館です。小学生から高校生の4人の子育て中です^^



近藤 貴馬 (平成15年卒) あだな「とーま」

大正時代から続く京都の八百屋、西喜(にしき)商店の四代目。「地域と京都を結び、人と人が交わるお店と事業づくりを目指します。第98代高校生徒会会長を務めた時、ワールドカップ日韓共同開催記念行事「サッカーボールアフリカ寄贈運動」に取り組みました。



八木 翔吾 (平成18年卒)



原田 佑樹 (平成20年卒)

LIN-NAH株式会社 代表取締役



- 親身になって、
とことん一緒に考える。
「魅力」を形に、
「心が動く」を創り出す。
マーケティング界の
「おせっかい集団」
- DTPデザイン
 - 映像関連
 - Web制作
 - マーケティングプラン

瞬く間に時が流れ、今では7人家族となりました。立命館の歴史の1ページに名を刻ませていただけたこと、そして学生時代にさまざまなことへ挑戦できたことは、かけがえのない財産です。子どもたちにも挑戦することの大切さを伝えていきたいと思っています。



西村 昂 (平成23年卒)

西村陶業では半導体・自動車産業向けのセラミックス部品を日本・北米向けに製造販売しております。弊社には合計5名の立命館中学・高校出身メンバーが在籍しております。同じ学び舎を出身した5名で力を合わせて、信頼される会社を築いて参ります。



京都中央信用金庫 卒業生一同

一緒にうれしい
On Your Side

京都中央信用金庫

卒業生一同

〒600-8009
京都市下京区四条通室町東入函谷鉦町 91 番地
TEL. (075)-223-2525
FAX. 0120-201-580(フリーダイヤル)
<https://www.chushin.co.jp/>

磯野 賢士 (平成20年卒)



磯野・熊本法律事務所
ISONO & KUMAMOTO LAW FIRM

弁護士 磯野 賢士
(大阪弁護士会)

道を照らし、ともに歩む

私たちは、専門知識・経験を活かし、最適なソリューションをスピーディに提供し、特に、企業間紛争、事業承継／経営者資産管理、不動産建築問題を中心として、みなさまの道を照らし、ともに歩んでいきたいと考えています。

清和会やソフトテニス部OB・OG会での世代を超えた交流は得難いものであり、立命館の繋がりに大変感謝しております。父磯野淳（昭和56年卒）とともに毎年清和会総会に参加することを楽しみにしております。

〒541-0047 大阪市中央区渡辺路3-2-10 ステラ淀屋橋ビル11階
TEL : 06-4256-0621 / FAX : 06-4256-0622
Mail : t-isono@ik-lawfirm.com / WEB: <https://ik-lawfirm.com>

北村 直也 (平成23年卒)

京うどん生蕎麦 おかきた 四代目



太田 格之進 (平成30年卒)



本年も
皆様より
総会の開催に
多大なるお力添えを
賜りましたことを
厚く御礼申し上げます

立命館清和会
第114期
平成13年卒
幹事学年一同

教職員インタビュー ～立命館の歩みと思い出エピソード～



市原 康男 先生 (英語科)

北大路から深草、長岡京 全てに関わってきた「立命館の歩く百科事典」

1976(昭和51)年3月、貴島先生(理科・技術科)、高杉先生(社会科)、松田先生(数学科)、角先生(英語科)と同期入職しました。給料日の20日になんて、この同期5名で「120日会」と称する「飲み会」を結成し、深草移転までの12年間ほぼ毎月開催していました。2012年3月の定年退職後も、長岡京移転、清和会、入試業務等のお手伝いをさせていただいております。

◎長年の教員生活での思い出深いエピソードは何ですか？

特に思い出深いのは、1979年3月卒業の学年と、1985年3月卒業の学年です。

1979年卒業生は、私が教員として初めて受け持った学年であり、硬式野球部の顧問としても3年間共に過ごしたため、思い出が非常に強い世代です。未熟ながら必死で彼らと向き合った日々は、今振り返ってもかけがえのない時間でした。彼らとの交流は今も続いており、現在も月に一度は有志が集まり、一献酌み交わす間柄です。また、彼らのうち少なくとも14名が、自分の子どもを母校に入学させており、親子2代にわたって私が担任をしたケースもありました。長岡京キャンパスへの移転時に、「PTA・親子そろって清和会部会」と題した懇親会を開催しました。

一方、1985年卒業生とは、中学3年から高校卒業までの4年間にわたって関わりました。この学年もまた忘れがたい存在です。彼らは一筋縄ではいかない生徒たちで、校史に残るような(笑)幾多の「事件」を起こしてくれました。しかし、彼らは素直さと人懐っこさを持ち合わせており、どの教員も彼らを見捨てることなく、むしろ愛情をこめて育てていました。彼らもまた社会人としても様々な分野で活躍しており、子どもを母校に通わせて卒業生が10名にのぼります。

どちらの学年にも共通して言えるのは、「自分の子どもをこの学校に通わせたい」と心から思っていてくれることです。これは、学校にとって何よりも誇らしく、そしてありがたいことだと感じています。卒業して何十年経っても、学校を、そして教員を信頼し、関係を大切にしてくれる彼らの存在こそが、私の宝であり、学校の財産であると思っています。



上田 正治 先生 (英語科)

立命館卒業生で現役教員ウエダーマン！今年度でついに完全退職！

昭和54年3月に本校卒業後、立命館大学文学部へ。就職活動は教員一本で勝負～！立命館中高には英語科の空きがなく、仕方なく(?)公立中学校の採用試験にチャレンジ。幸い、京都のみ引掛かり、その後8年間バ・スタの魅力を味わうことになる。このまま公立で一生を過ごすのどう思う？という先生、恩師さんより突然の電話が…。そのままと先住して岡崎にある喫茶店に監禁され(笑)、その場で公立退職、立命館就職を決めることに。そして1991年より立命館教員としての生活が始まる。35歳の歳月が流れ、現在65歳。いよいよ長かった教師生活にピリオドとなります。

◎上田先生ご自身の学生時代の思い出をお聞かせください

小学校時代は「卓球小僧」の異名を取ったが、中学時代はバグ・ツドゥラー病(膝の成長痛)に悩まされ、悶々とした3年間。ところが中3の秋に一気に回復。当時日本で最大ブームになっていたブルース・リーに憧れ、高校では空手道部の門をたたく。それが私の後の人生に大きく影響を与えることになった。今は亡き私の生涯の師匠との出会い…。今もその先生の背中を追いかけたい自分があります。ブルース・リーにはなれなかったが、今の自分にはなれたことがありました！

◎今年度で最後に立命館を退職される上田先生ですが、長年の教員生活で思い出に残っているお仕事は何ですか？

あまりにも多すぎて…

学級通信発行数日本一達成、全国高等学校空手道選抜大会個人形競技ベスト8達成、燃えに燃えた夏期合宿、中高の生徒会担当6年間、苦しみぬいた学年主任7年間、バイクと煙草を追いかけ続けた日々、中国への修学旅行でトラブルがあり生徒と話し合った北京ダック会議、生徒たちと真剣に向き合った毎日、そして感動の卒業式…これらすべてが自分にとってかけがえのない思い出となっています。素晴らしい生徒たちや先輩方、同僚と出会えたことが自分にとっての宝物です。

◎上田先生にとって「立命館」とは？

人生のすべて！ アイラブ立命館！ サンキュー立命館！

◎北大路から深草への移転についてのエピソードを教えてください

オリエンテーションの場で、我々新人5名に対して、もう来年にでも「移転・男女共学」するかのような竹上信次校長の挨拶を今でも鮮明に記憶しています。移転と男女共学は中高現況では1960年代から緊急の教育課題でしたが、学園全体の本格的な検討課題となったのは1980年代に入ってからでした。移転先、共学における生徒指導、学校規模、生徒募集等々の種々様々な議論や困難を突破し、1988(昭和63)年7月に深草学舎へ移転することができました。

移転直後は、男女共学に関してはそれほど苦労があったという記憶はありませんが、一番の苦労は生徒の安全な通学と地域住民からの苦情対策でした。本校生徒約1500名と地域の小中学生が狭い通学路を朝夕の一定の時間に、しかもその通学路は学治・山科方面からと京都市内を繋ぐ「裏道」であり、「通学時間の進入禁止」など完全無視の大型ダンプカーが我が物顔で走っていたのです。26年間、よくも大きな事故が起きなかったものだ、と今でも驚いています。

◎市原先生にとって「立命館」とは？

なんともいって「平和と民主主義」「自由と清新」が生み出した「自主・自立・自律」の校風です。この校風こそが「立命館中学校・高等学校」そのものであり、この校風の下で学校生活を送ったからこそ、君たちが母校を慕ってくれるのではないですか？

◎卒業生との印象深い思い出を教えてください

(※特に中学1年から6年間関わってくださった幹事学年について語っていただきました)

高校生生徒会担当1年目…大山牧子会長らと5年後の本校100周年に向けてどんな企画を打っていくか…と頭を悩ましていたころ、竹田真司くんが草津の古着屋で見つけてきた1枚の立命館の戦時中の制服との出会いが、その後の生徒会活動の方向性に大きく影響を与えていくことになりました。話せば長くなるのでここでは省略…。が、立命館に戦争前から現代にいたるまで、脈々と流れているであろうアイデンティティーとは何かを感じることが出来た大きなきっかけになりました。

今思うと、当時の日々って、すごく濃くて、楽しくて、教員してるなあ～と実感できる毎日だったような気がします。教員としての43年間、その時々の自分が大切な日々の連続だったことには間違いがないが、2000年前後の自分を思うと、自分というものが何なんですか、一番指ののっていた時期だったような気がしています。



第96代生徒会の面々
まだ見ぬ100年後の後輩たちへの
メッセージを全校生徒でしたためした



戦時中の制服の持ち主
高島さんとともに…

—北大路から深草、そして長岡京へ— 立命館の歩みを支えてくださった先生方にご自身の思い出や、 当時のエピソードについて語っていただきました



苗村 亜矢 先生 (数学科)

男女共学 草創期の陰の立役者 みんなのアイドル「苗ちゃん」！

立命館に新採用していただいて、今年で38年目になります。男子校最後の年で、男女共学1年前(深草移転の1年半前)でした。その後、担任や生徒会、生活指導部長、総務部長、教頭、副校長と様々な役職を経験させていただき、昨年定年を迎えましたが、引き続き担任と学年の副主任をさせていただいています。可愛い生徒たちや明るく誠実な先生方と、これまでとあまり変わらず元気の「苗ちゃん」で楽しく頑張っています！

◎立命館の男女共学スタート時についてのエピソードを教えてください

男女共学化の1年前、女子の入学に合わせて体操服が一新され、女子は上下赤のジャージになりました。学校説明会でお披露目したいが、これを着る女子生徒がいらないということで「苗村先生、赤のジャージ着てスライド写って！」と言われ、赤ジャージを着ることに…。赤ジャージ着た教員は、多くの教員の中で私だけだと思います(笑)。また、当時の生活指導部長の日高先生から「女子のクラブは何かが必要？校則はどのようなのがあるか考えて」と今から思えば何とも重大な任務を任せられ、中高時代の経験から「女子単独のクラブは、バスケットボール・テニスでどうしようか？」と提案したところその3クラブが発足したのです。女子が入ってきてからは、私なりに女子に寄り添いながら、厳しい指導も頑張ってきたと思います。

◎長年の教員生活で印象に残っているお仕事は何ですか？

書ききれないほどありますが、あえて挙げるとすると女子バスケット部の創設と修学旅行の復活です。女子バスケット部は、当初初心者8人の弱小チームで、私のクラスの女子8名中5名がバスケット部というまじりに手作りの船出でした。今では部員30名を擁するクラブとなり、創部以来私が顧問を務めているので、自分たちが「何代目か」を理解しています。ちなみに今年の高1は38代目！です。毎年OG会も盛況で、女子部活動の先駆者としての誇りも感じています。もう一つは、長年途絶えていた修学旅行の復活です。当時の生徒会と共に7年がかりで取り組み、「自分たちは行けなくても後輩たちのために」と新聞やラジオにも働きかけました。その情熱が実を結び、修学旅行は復活。その後立命館高校の修学旅行は進化を遂げ、目玉行事の一つになっています。



久保田 一暁 先生 (理科)

深草から長岡京へ 立命館の「今」を引っ張る 副校長先生！

1982年4月、私は期待と少しの不安を胸に立命館中学校に入学し、北大路キャンパスで6年間を過ごしました。卒業後は生物学を学ぶため関東の大学に進学しましたが、そのための母校の素晴らしい思い出も改めたくて気がしてきました。大学卒業と同時に母校に教諭として戻ってからは、気がついたらもう34年。担任13年(中学・高校9年)、生徒会担当3年、教頭8年を経て、現在は副校長5年目。本当に振り返るとあっという間ですが、これまでに類も無い先輩や同僚、頼りになる後輩、理解ある保護者の皆さん、そして何より元気がいい生徒たちに支えられてきたからこそです。たくさんの方との出会いに心から感謝し、これからも教員生活を頑張っていきたいと思っております。

◎久保田先生ご自身の、北大路での学生時代の思い出をお聞かせください

中1の春休み、高校の硬式野球部が甲子園に出場することとなり、バス55台での応援ツアー。アルプススタンドは生徒や保護者、卒業生で埋め尽くされ、皆で声に合わせて応援した熱気と一体感、今も鮮やかな思い出です。また、中3時には「卒業研究レポート」として川魚を題材にフィールドワークを実施。中学生ながらその魚に二つのタイプがあることに気づきました。数年後、その魚が実際に二種に分かれるという研究結果を知り、小さな発見を覚えました。高校時代は剣道部副主将や生徒会執行部として活動しつつ、受験勉強にも励み、日高先生の生物、上野先生の地理、高杉先生の日本近代史、和田先生の英語など魅力的な授業に刺激を受け、学ぶ楽しさを心ゆくまで味わいました。

◎深草から長岡京への移転についてのエピソードを教えてください

長岡京キャンパスの計画化にあたっては、副校長の文田先生や事務室の上芝さん、さらには鹿島建設の設計担当者とともに、教職員を25のグループに分け、1グループあたり5回、合計100回以上ものヒアリングを重ねました。理想の校舎や施設などについて夢を語り合いながらも、資金やスペースという現実の壁に知恵を絞る毎日は濃密で、困難だからこそ達成感がありました。深草キャンパスの豊かな木々、サクラやスノキ、メタセコイヤたちは多くが移せましたが、生徒会からの強い希望で中庭のヤエザクラだけは丁寧に移植。今では長岡京キャンパス正門の脇で毎年見事な濃桃色の花を咲かせています。また、「アンネのバラ」や末川博先生のレリーフも大切に運ばれ、長岡京キャンパスでも生徒や教職員を見守り続けてきています。

◎卒業生との思い出エピソードをお聞かせください

卒業生の中高時代の思い出は本当にたくさんあり、ひとつひとつが大切なかけがえのない思い出です。印象深いエピソードでは、「フズ！年の差なんて」という女性の先生を驚かせていくという、全国ネットの番組に生徒とテレビに出演したことがありました。生徒が「森高千里に似ている(私が言ったわけではありません!)」と応募したため、森高千里のお面をかぶって出演！深草校舎もたくさん映り、恥ずかしさと楽しさで忘れられたい思い出です。現在では、銀行での相談から、車の購入、家のメンテから子供の家庭教師、食事の場に至るまで生活あらゆる場面で教員たちから関わってくれています。彼らがそれぞれの分野で活躍し、また私を気にかけてくれることに感謝しかありません。そして定年を迎えるにあたって本当にたくさんの卒業生や、バスケット部のOB・OGからのもっとお祝いの会を開いてくれたり、花束を持って学校に来てくれました。「私の人生においてこんなに嬉しいことが起こるとは！頑張ってきたよかったです！これまでの苦勞が報われたような気持ちになりました。こんなにも温かく、嬉しい日々がくるなんて、あのしんどかったころの自分に「頑張っていればいつか素敵な日があるよ!」と声を掛けたいです。卒業生との絆は私の人生にとってかけがえのない宝物です。」

◎苗村先生にとって「立命館」とは？

「人生の宝物」になりました。立命館は、教員として多くの出会いと経験をさせてもらったかけがえのない場所です。生徒たちと共に喜び悩みながら歩んだ日々、卒業生との絆も立命館があったからこそ生まれた宝物です。

◎卒業生との印象深い思い出エピソードは何ですか？

20代では中学校教員として日々の担任業務や授業づくりに熱中し、「この仕事を一生続けたい!」と感じていました。大山登山や文化祭、体育祭で生徒たちが力を合わせる姿は忘れられない思い出です。生徒会担当としては卯月祭、文化祭期間企画、リーダー研修などを取りました。当時の生徒たちの情熱と工夫が今も受け継がれていることを誇りに思います。30代では高校に異動し、SSH草創期のクラス担任やMS・AD(現AL)コースの立ち上げに関わり、新しい挑戦の日々を過ごしました。中には、窓辺でギターを弾いていた生徒がコウモリを捕まえて登校するなど、思わず笑ってしまう珍事件も、彼が後に「くるり」としてプロデューサーとしては夢にも思いませんでしたが、そんな日々一つひとつがかけがえのない宝物です。

◎久保田先生にとって「立命館」とは？

気がついたら、これまでの人生の7割以上を立命館中高とともに歩んできました。そんな長い時間を振り返って改めて感じるのは、立命館中高が「いつも時代の半歩先を行く学校」であるということです。「自主自立」という伝統をしっかりと大切にしながらも、立命館中高はいつも「生徒が主人公」となるような学びの舞台をつくり、さまざまなことに果敢に挑戦し続けてきました。その挑戦の姿勢は、どんな時代にあっても変わることがなく、私自身も勇気や刺激をもらいながら、一歩ずつ成長させてもらったと感じています。

4名の先生方、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました!



2025年還暦学年(昭和59年卒) 座談会 ～ 甲子園出場の思い出 ～



立命館創立120周年という記念すべき年に、今年卒業25年目にあたる私たち第114期の学年が幹事を務めることとなり、総会・懇親会のテーマとして「大還暦～そして永続へ～」を掲げました。その「大還暦」にちなんで、今年還暦を迎えられる学年(昭和59年卒)の先輩方について特集しようという声が上がリ、その学年の硬式野球部の皆さんが高校3年生になった春、『第55回春の選抜高校野球大会(甲子園)』に出場されたということを知りました。

そこで、甲子園に出場された立命館高校硬式野球部OBの中村さん、田中さん、南さんに加え、応援団長として奮闘された、元生徒会長田淵(旧姓:太田)さんにご協力いただき、長岡京キャンパスにて当時の思い出について語っていただく座談会を開催しました。皆さんとても仲良く和気あいあいとした雰囲気、参加させていただいた幹事学年メンバーも終始笑っぱなしの2時間でした。そんな座談会の模様を、卒業アルバムの懐かしいお写真や、南さんをお持ちくださった貴重な品のお写真とともにご紹介いたします。

還暦学年 座談会 参加メンバーのご紹介



中村 高之彦さん

元硬式野球部主将、当時のポジションはショート、打順は7番。

現在は高校硬式野球部OB会の理事長で、立命館大学硬式野球部OB会の副会長。これまでに関西学生野球連盟(大学野球)の常任理事のご経験も。立命館大学硬式野球部の現役時代は、副主将を務められました(当時の主将は同学年の古田敦也氏)。現在は『ソニー生命』に勤務されています。



田中 肇さん

当時のポジションはファースト、打順は3番。当時、あまり練習は好きじゃなかったとのことですが、いわゆる天才型だった田中さん。高校2年の秋頃に素質が開花され、打率が上がり、6番バッターからその後3番バッターともなり活躍されました。特に足が速く、ショートゴロでも足の速で一塁セーフになったとか!甲子園での試合でも初安打を打ったり、盗塁を成功させるなど、ご活躍されました。現在は京都でお土産物をおつかう『株式会社おき』の取締役を務めておられます。



南 忠昌さん

ポジションは補欠でしたが、一塁ランナーコーチとして活躍されました。

ご本人曰く、50歳を過ぎてからが全盛期!硬式野球部OB会に関連する全国的な野球大会(50歳以上の選手が出場する500歳野球大会や昭和40年春野球大会など)の世話役を務められ、立命館高校硬式野球部OB会の活動のサポートもされています。立命館中学時代は将棋部で、他校の硬式野球部で活躍されていたお兄様に憧れて、高校から硬式野球部に入部。最初の2か月はきつい練習に毎日泣きながら耐えていたそう。現在は京都の『ハローワーク』にて勤務されています。



田淵(旧姓:太田) 衛さん

当時の第68・69代生徒会長を務められ、硬式野球部の甲子園出場に伴い結成された立命館高校応援団の団長を務められました。

大学ご卒業後、京都中央信用金庫に30年お勤めされ、現在は『株式会社 増田医科器械』の役員をされています。

——この度は、お時間を作っていただきありがとうございます。まず、皆様、今年60歳を迎えられるということで、還暦おめでとうございます。

一同: ありがとうございます。



——早速ですが、皆様は1983年春の甲子園選抜高校野球大会に高校3年生時に出場されました。まずは、甲子園出場が決まるまでのエピソードをお聞かせいただければと思います。

では、キャプテンの中村さんから順番にお願いします。

中村さん:

僕らは、多分やけど、監督に『洗脳』されましたね。当時の監督、北清水さんは立命館高校・大学の卒業生で、高校では昭和30年夏の甲子園ベスト4の時の選手、立命館大学硬式野球部でもキャプテンをされたあと、大学の助監督までされた方です。監督は学校職員ではなく、私財を投じてうってボランティアで毎日指導してくださってました。もう一人、当時大学生だった権(ごん)コーチ(OB)にも毎日熱血指導をしていただきました。お二人良い言葉に、良い意味で『洗脳』されていたと思います。立命館高校は、僕ら甲子園に出場したのが春の選抜という4回目、夏の甲子園も3回出て歴史のある学校なんです。僕らの学年は同級

生が11人(うち10名は立命館中学出身)、3年生でも25名くらいいないところに指導者の数が多かったので、練習量はすごく豊富だったと思います。練習はきつかったですが、当時あって当たり前だったような行き過ぎた指導はなかったです。

部員は少なくとも、二つ上の学年は夏の大会ベスト4、一つ上の学年は部員3人でしたがベスト16でした。僕らの学年は1年生の秋から試合に出る機会も多くて、身体の大きい部員が多かったのもあり、監督にも期待されました。それが、自分たちの代になった秋季大会で負けが続いたんです(1次予選のリーグ戦で4試合総て2勝2敗)。

その試合の後、「気分転換に明日は休みや!」と監督がおっしゃったので、大喜びで同級生部員全員でプールに遊びに行きました。休日明け、練習に行く、始まる前に監督が「お前ら昨日、プールに行っとったらしいな。わしはな、お前らは絶対練習に来ると思ってグラウンドで1日中待ってったんや!」と低い声(笑)。その日の練習は死ぬかと思ったくらい、めっちゃめちゃきつかった(笑)。その日以降、空気が締まったのか試合に勝てるようになりました。

監督がよくおっしゃって「野球は気合や!」という言葉と、「お前らは勝てるから大丈夫や」という言葉に、良い意味で『洗脳』されていたと思います。普通に考えたら甲子園に行けるわけなのに(笑)



『55』選抜高等学校野球大会 1983

田淵さん:

甲子園出場が決まったのも神がかり的な流れやったもんね。

南さん:

そうですね、その2年生の秋の近畿大会では、まず京都府の1次予選(リーグ戦総当り)の結果が3勝2敗でギリギリで2次予選へ通過、2次予選では準決勝で負けたけど、3位決定戦で逆転勝ちできて、3位に入れたんです。近畿大会に出られる京都の学校はその年は3校だったので、立命館は京都代表の中で3番目として出場しました。

結果、近畿大会では奈良1位の学校、和歌山1位の学校、大阪1位の学校に勝って準優勝できて、京都代表で残っていたのは立命館だけで、甲子園出場が確定しました。京都府の予選で3回も負けて甲子園に行けたのは、今考えると奇跡だったと思いますね。

中村さん:

その近畿大会初戦の高校は奈良の強豪校(智弁学園)で、対戦が決まって直後に、コーチの権さんと保護者数名が練習を偵察に行ったんです。うちの親父も行ってたので、あとで親父が言った話ですが、智弁学園はすごいレベルで「とてもじゃないけど勝てないだろう」と監督に報告したらしいんです。それを聞いた監督は、偵察に行ったメンバーに「子どもたちに絶対言うたらあかんぞ!」と念を押したらいいです。僕らが監督から聞いたのは「次の対戦校はな、屁みたいなチームやったらしいわ!絶対勝てるぞ!」やったんです。智弁学園との試合は投手の山口が奇跡的に8回までノーヒットノーランをしてね、9回に詰め寄せられたけど4対3で勝ったんです。よ。

南さん:

あと、近畿大会でベスト8に残ったら、ベスト8の試合会場は甲子園球場だったんです。だから、その近畿大会の時に甲子園の土をみんな持って帰りました。ちなみに、春の選抜で負けた時は、監督に「お前ら、夏にまた来るんやから土は持って帰るな!」と言われたんですけど、「まあ、近畿大会で持って帰ったから、ええか!」ってなりました(笑) そうしたら、結局夏は出れなくて。その近畿大会で持って帰った土が家にあります。

田中さん:

(あの時に土を)取っておいて良かったよな(笑)

僕が覚えているのはね、「立命館」の刺繍入りの野球用セカンドバッグを全員が持っていたんですけど、秋の大会から春の選抜までの4ヶ月くらいの間、他校生に絡まれて不祥事で出場辞退になったあから、立命館」の名前を隠して持ちなさい、と学校に言われたんです。他の強豪校でも「不祥事による出場辞退」はよくある話だったんで。

田淵さん:

僕は甲子園出場が決定した日、取材陣がたくさん学校に来ていた光景が印象的ですね。選抜大会の主催の毎日新聞や、京都新聞、KBS京都、NHKも来てたでしょ。

中村さん:

甲子園出場が決まって学校に電話があった瞬間の映像(当時の橋本二三男校長が受電)とか、練習風景とか、選手へのインタビューとかがテレビニュースになったり、メディアからの取材がたくさんありましたね。「立命館高校 春の選抜高校野球出場」っていう内容で1時間の特集番組が組まれて放映されたりもしたんですよ。

田淵さん:

中村がキャプテンやったから、いろいろインタビューを受けていたよな。



甲子園出場が決まり沢山のメディアに取材を受ける硬式野球部の皆さん

——皆さん、当時どれくらい練習されていたんですか?

田中さん:

僕はね、どうやって手を抜けるかを、日々考えながらやっていたん(笑)僕はファーストやったんですけど、セカンドの先輩によく「声出せ!」と怒られてたから、練習中に声出すときはセカンドの先輩に向かって大声を出して、あとは黙っていたんです。すると、練習終わりに「田中!今日はよく声が出てたな!」と褒められるっていうね(笑)

中村さん:

んなアホな!(笑)

田中さん:

あとは、ある時コーチの権さんからノックを受けて守備練習してたんですよ。僕はファーストで守ってたから、権さんが左に右に振ってきて、でも、ファーストの左側はファールやと(笑)そんな守備はないと思って腹立ってきて、「こっち(左側)はファールじゃー!」って言って、権さん目掛けてボールを投げ返して。それから全部インフィールド(右側)になったっていう(笑) そんなことばっかりやってました(笑)

中村さん:

僕は、練習終わって家帰ってからも、家で夜11時くらいまでずっと自主練習してました。

田中さん:

え、みんなやってたん??

南さん:

練習についていかれへんからね、家帰ってから近くの公園を走ったり、素振りしたりしてたよ。

田中さん:

大人になって知って衝撃を受けたのが「えっ、家で素振りって、バット家にあつたん??」って。(笑)

中村さん:

家にバットがあるのは当たり前やし。田中が家帰って素振りしてなかったって聞いて、びっくりしたわ(笑)

田中さん:

あと、みんなめっちゃめっちゃ仲良かったよな。冬野グラウンドの下にあったパン屋(ショップひらぎの)に練習終わりにみんな来て寄ってから帰っていたんですよ。

南さん:

コンビニみたいなお店で、そこの売り場に、1人につき1本ずつ、お店のおばちゃんか粉のボカリスエートを溶かしてスポーツドリンク作って、冷やして置いてくれてた。それそれ名前を書いてボトルキープしてもらってたね(笑) 練習終わり、みんなて店でそれをガーッと飲んで、パンとか買って食べてから帰ってましたね。



——中村さんはキャプテンとして心掛けていたことはありますか?

中村さん:

何にもないです(笑) 監督にポジティブに『洗脳』されてたから、個々が頑張って甲子園に向けて練習していたと思います。(田中さんは練習さばるから)俺の仕事は田中を怒ることやったな。「田中ー!声出せー!」ってね(笑)

田中さん:

とりあえず、北清水監督の方針が「野球は気合や!」やったから、どこと試合しても立命館はめっちゃ声出して学校やったんですよ。だから、キャプテンとしては声を出させることしか考えてなかったですかね。



様々な野球雑誌に掲載された立命館高校の記事

——メディアでも取り上げられていたから、当時皆さん有名人だったんですね! とてもモテたんじゃないですか?

田中さん:

それこそ、僕の家が室町通りにあって、北大路まで自転車まで登校していたんですよ。当時女子校だった、室町通りやたら平安と橋、鳥丸通りやたら成安と同女っていう、女子生が多いエリアを通るっていう2通りの通い方してましたね(笑)特にバレンタインは両方の道を通ってました(笑)

中村さん:

四条大宮とか西大路七条に住んでいる同級生は、家からバス1本で北大路まで行けるのに、わざわざ四条鳥丸や鳥丸七条までバス出て、地下鉄で北大路まで通ってましたよ。女子校が多かったから(笑)

——では、監督は恋愛禁止というような私生活の厳しい制限もなく、野球には厳しいけど、結構自由だったんですね。

田中さん：
(そんな制限は)全然、ないよ。だって、この当時、雑誌に載ったら、選手の住所も載ってるような時代やったんでね。ファンレターも大半は学校に届くけど、自宅に直接届くこともありましたからね。

中村さん：
当時、世の中が甲子園ブームで、高校球児がアイドル視されていた時代だったんですよ。だから雑誌にもたくさん高校球児特集が組まれていましたね。

田淵さん： 雑誌のSeventeenの別冊付録に、立命館も載ってたよな。

田中さん：
そのSeventeenを持って、「サインして欲しい」と女の子が学校に来ることもあったんですよ。芸能人みたいやってね。

中村さん：
僕ら舞い上がってましたね。勘違いしてて、そら負けるわな、みたいな(笑)

南さん：
補欠の僕でも女の子に駆て手作りのお弁当を買ってましたよ。それが先輩にバレて怒られたけど(笑)

田淵さん： そういう時代やったんよな。個人情報も丸出しやったしね。



Seventeen(雑誌)の付録の誌面



南さんが特集で掲載された記事

南さん：
今思うと、よくこの人数で甲子園出れたなあと思いますよな。ましてや中学将棋部出身で甲子園に出られたのは、自分だけじゃないかと思うんです。雑誌の特集にも「元将棋部」として取り上げられて、僕は何かバットではなくリニアを押している写真で載ってるんですけど(笑)
今でも、色々な強豪校のOBメンバーと交流がある中で、元将棋部だったことを覚えてくれて今でも話題にあがるし、自分からも「将棋部から甲子園出たのは僕だけです!」と自慢しているんですよ。
まあ、なんて僕が雑誌に取り上げられたんだか、不思議なんですけどね。

中村さん：
よう泣いてたからちやうど泣きながら練習してたもんな。

——南さんが泣いてまで、つらくても辞めずに野球部で頑張ることが出来た秘訣はなんですか？

南さん：
やっぱり中学からのメンバーがもともと友達で、本当に仲が良かったというのがありましたね。僕が初心者でも仲間外れにもされなかったし、何より、自分で練習に参加できたんですよ。人数も少なかったし、最初の頃もバッティングもちゃんとさせてもらえたり。自分は体力がないので、家に帰ってご飯を食べてから、近くの公園をランニングしたりしてたね。

田中さん： (改まって)すごいなあ。

南さん： (自慢げに)素振りも頑張ってた。

田中さん： すごいなあー!! (笑)

一同： 笑

南さん：
ちょこっとでも練習試合にも出させてもらえてたし、僕もがんばらないとあかんなあと思ってましたね。

ちなみに、中学時代にバイオリンをしていた宇多、元中学吹奏楽部の1つ下の長積(現:立命館大学 教授)、元中学将棋部の僕の3人で、『野球部の文化部三人衆』と言われてました。

——勉強と部活動との両立は、皆さんどうしていましたか？

中村さん：
当時は、立命館高校から大学へ上がる時は、学内試験があって、全体の5パーセントくらいの人が落ちていたんですよ。

田中さん：
僕、内部テスト用の塾に行ってたよ。出来なさ過ぎて(笑)

中村さん：
高校3年の秋にあった実力テストは、下から2.3.4.6.7番目は全部硬式野球部やった(笑)

田淵さん：
僕は「野球部は練習大変なんやし、野球部の人を試験で落とすのは可哀想なんちゃう?」って先生にずっと言いに行っていたことあるよ。だって、勉強する時間がなかったんやもんな。

中村さん：
いや、勉強しようと思ったら出来たんやと思うけどな(笑)

南さん：
こんなん言ったら怒られるかもしれませんが、昼休み終わったらコンビニに着替えて、5、6時間目の授業中は練習に備えて寝て(笑)、掃除当番もサボって先輩より早く終野グラウンドに向かってたんでね。

中村さん：
6時間目の授業中に寝ていたら、先生が「野球部、お前らも大変やな」と肩を揉んでくれたよな。

南さん：
僕は引退したら、担任の先生にサボってた掃除を卒業までやれーって言われて、毎日掃除していました。

——田淵さんは、秋から甲子園までの約4カ月間で、大変だったことはありますか？

田淵さん：
甲子園が決まってね、野球部は実力がもうあって、あとは練習すれば甲子園に出られるじゃないですか。でも応援団はゼロからだったんで、そこから大変でしたな。壮行会も開いたし、大学の応援団に指導してもらいながらの毎日の練習、吹奏楽部との合同練習もあった。ある一定レベルにまで持っていけないとダメやったんで、毎日の練習が大変でしたな。試合当日は、団旗を持つのも初めてだった(1つ下の学年の壇さんが担当してくれた)けど、途中で降ろしたらだめだったので、アルプススタンドの風に負けないように持ち続けるのが大変だったと思いますよ。

応援団は1年生から3年生まで50人くらいは集まったと思います。応援団の服装は、詰襟はやめて白いトレーナーにエンジエ立命館の文字を入れたもので揃えました。



応援団で揃えて作ったトレーナー



応援団長を務める当時の田淵さん

——次に、甲子園当日のことで何か印象的だったエピソードはありますか？

南さん：
監督から、「試合中は上を見てスタンドとか見えたら緊張するから、ボールだけ見ろ」と言われたんですよ。僕、真面目やったから本当にボールだけ見て(笑)。

中村さん：
ほんまにボールだけ見てたら、すぐ終わってしもた。(結果は1対2で桜美林高校に1回戦敗退)

田中さん：
試合自体が短かったからね、投手戦で、1時間半くらいやったんちゃうかな。早かったなあ。もうちょっと味わいたかったなあ。



田淵さん：
でも、第1試合やったけど、立命館側のアルプススタンドは満員に応援の観客が入っていたよな。
試合が1試合目やったから、その日は応援に向かう立命館関係者は午前3時に集まって出発したんですよ。選手のご家族、学校関係者、清和会からも相当な台数のバスがチャーターされて、アルプススタンドを埋め尽くすほどの大応援団が結成されました。



アルプススタンドを埋め尽くした立命館の応援団

田中さん：
僕が印象に残ってるのはね、ファースト(一塁)で守っていると、甲子園でマウンド(投手が立つ場所)がすり鉢状になっていて、サード(三塁)が隠れてほとんど見えなかった。それ見て「わー、すごいなー」と思って守ってたよ(笑)

——では次に、甲子園出場が、その後の人生にどう影響を与えたと感じておられますか？ 中村さん、いかがですか？

中村さん：
僕はね、甲子園に出てなかったら、多分、高校で野球辞めてたと思う。野球の実力は大きくなったけど、甲子園に出たら立命館大学硬式野球部に入りました。当時の大学野球部員はほぼ2部学生(夜間学生)で、日中はずっと野球漬けでした。ほんとに野球をしに大学に行ったようなものです。

選手としての野球は大学まででしたが、卒業後も草野球を続けたり、社会人クラブチームの部長兼マネージャーをしたり、また、少年野球のコーチ、中学硬式クラブチームのコーチも引き受けて、今でもOB会の役をしています。ずっと野球に関わる人生になってしまいましたね。

田中さん： すごいなあ、すごい。

中村さん：
ほんとはもうちょっと自由にやりたかったな。
でも、これもどこかでめぐり合わせなんかなと思うんですよ。北清水監督がそういう人やったんでね。野球を通じて僕らはいろんなことを教わったし、そのおかげで今の自分はあると思っているので、野球に恩返し気持ちは持ち続けなあかんと思うんですよ。

——田中さんはいかがですか？

田中さん：
自分は大学野球部は序盤で辞めたんですけど、甲子園に出た経験があることで、人生において、ものすごく得をさせてもらったなあと思っています。就職するときも、就職してから、「甲子園に出場した」という経験のおかげで、周りからの評価がアップと上げてもらえる、それでだいふ得をさせてもらった記憶があります。

小学生の少年野球も新しくチームを作ったんやけどね。自分が練習するのは嫌いやけど、人に練習させるのは好きっていう。ひどい人間ですけど(笑)。結局、(少年野球に)19年も関わるとは思ってもみなかったけどね。あと、甲子園に出られたおかげで、「自分は運がある」とか、ものすごくポジティブな考え方を持てるようになったというのはあるよな。

一同： うんうん(共感して頷く)

中村さん：
それはあるな、「俺はなんか運がある人間なんや」とって勝手に思ってるな。

田中さん：
仕事でも崖っぷちに立った時でも、うまいこと切り抜かれるとかね、心の中で運がいいと思っているから、結局それが運を呼ぶのかなと思う。

中村さん： ええ話やなー!

田中さん：
最後まで真面目にね(笑)

それと今年60歳でしょ。甲子園出場当時は、高校生で若くて、自分が勝手に出られたというくらいの気持ちになっていて、まだ周りへの感謝は全くしてなかった。今思えば、周りのたくさんの人に支えられて出られたんや

なあと思って。還暦を機に、感謝もお返ししていかないといけないなと思って、昔の少年野球チームに行って、残っていた甲子園の土や、メダルを全部寄贈して、寄付金も出して、「当時は応援のバスを出していただけでありがたうございました」と挨拶してきたんですよ。これから出来る時に感謝の気持ちを返していきたいなと思ってます。

田淵さん：
田中君は音楽の才能あると思ってたから、ゆくゆくそういう仕事するんかと思ってた。曲も書きたし、歌詞も書きたし、シンガーソングライターなんよな。

中村さん：
結構ええ曲もあったよな。「甲子園の歌」も作ったやん。あれ、まだ覚えてるで。

田淵さん：
田中君と僕の2人でギターユニット組んでね、高校3年の文化祭で二人でコンサートもしましたよ。甲子園の影響もあって、他校の女子高生も大勢観に来てくれて、会場の教室の客席いっぱいやったもんね。



文化祭で歌う田中さんと田淵さん

——南さんは、いかがですか？

南さん：
僕は高2の時に肩を壊して、レギュラーではなかったけど、チームのために自分ができることをしようと思って、ランナーコーチに専念することになったんです。でもそうやって役割を与えてもらって、ベンチにも入れてもらったので、甲子園の土を踏むことが出来た。3年間一生懸命取り組むことで、物事を前向きにポジティブに考えるようになりましたね。

「悪いことがあっても、いい面もあるはずや」と捉える姿勢は今も自分の支えになっています。それは今、社会にでも活かしていると思うし、組織の中に入った時に、自分の役割を見つけて一生懸命取り組めば、甲子園に出られた奇跡のように、大きな結果に結びつくんだ、と信じてずっとやってきました。

例えば、大阪府の就労支援施設の立ち上げもやったんですけど、障がい者の面接会を開催する上で、最初、200人ほど集めて、「こんなうまくいけないうんやん」と言われて。でも結局200人くらい集めて、ケガ人もなくプロジェクトは成功しました。「神風が吹く」というか。「今日も神風吹いたなあ!」と田中君の言うように、「今日も奇跡が起きた」みたいな、ポジティブな考え方でずっと取り組めるようになりました。現在、僕が運営を手伝っている野球の大会を35年ほど続けてこれたのもうです。

あと中学将棋部から高校野球部に入って甲子園に出られたというのは今でも自分の自慢だし、それが自信になっていると思いますね。もう亡くなられた北清水監督と生前にお会いした時に、「南、お前野球部入ってどうやった?」と聞かれて。私が「僕みたいな元将棋部の人間でもみんなと一緒に練習させてもらって、監督には本当に感謝してます」と伝えたら、監督も喜んでくれました。

一同： ええ話やなあ。



——田淵さんは、元生徒会長・応援団長としていかがですか？

田淵さん：

僕は、甲子園の応援団長をやらせてもらったり、生徒会長をした経験は、間違いなくこれまでの人生にずっと生きてると思っています。

野球部の皆さんが頑張って甲子園に出場して下さったおかげで、僕は応援団長として携わらせていただいて、本当に感謝しています。普通はなかなか経験できないようなこともたくさんありました。

例えば試合中の応援団のエル交換。相手高校に対してエールを切る時に反対側のアルプススタンドに向けて声を届けないといけないんですけど、練習のおかげでちゃんと成功させることができました。あと、応援団のおかげで立命館の校歌を今でもしっかり歌えるし、人に対してエールを切れる力は、社会に出てからの仕事においても大いに役立っています。そういった力を自分の身につけてくれたのは、間違いなく野球部の存在でした。

亡くなった両親からも、「甲子園出場校の応援団長として携わらせていただけたというのは、何か持っているものがあるんやなあ」とよく言われていました。だから、この経験は私の人生にとっては非常に大きな出来事でした。

あと当時、愛川欽也さんが司会をしていた「おもしろ博士クイズ」（日本テレビにて1982年11月から1983年9月に放送）というクイズ番組の甲子園出場校特集の時に、立命館生徒会からも僕と曾我君が代表で出場しました。いわゆるクイズ番組だったんですけど、他にも野球の強豪校の生徒会の代表者が出場していましたね。結果、立命館が優勝して賞金30万円分の図書券を貰ったり（全額学校へ寄付）、副賞のビデオデッキやTVモニターとかもいただいで、当時高価なものやっただけ恩恵をこうも受けています。

あとは、例えばインタビューを受けたり、人前で喋ったり、田中君と一緒に人前で歌ったり。そういったいろんな経験をさせてもらってありがたかった。何かの舞台に立つってというのは、自分の人生にとってものすごく良い経験でした。それがたとえ失敗でも、成功でも。

中村さん：

ええこと言うなあ。
…ちょっと、一部俺が言ったようにしてくれへん？(笑)

一同：(爆笑)

田中さん：んなアホな！(笑)

田淵さん：

「人生の舞台に立つってというのは～って話のところくらいはどうや(笑)



——お話を伺っている、立命館の自由な校風だからこそ、それぞれ色々な才能をお持ちの方がいっぱいいらっしたんだと言うことを、改めて感じました。

田淵さん：

男子校だったから、楽しかったというはあるなあ。

田中さん：

中学の時は嫌やったけどなあ。

中村さん：

中学入るまで男子校って知らなかったからなあ(笑) あれ？女子はどこにいるんやろう？ってね。

南さん：

僕も、塾の友達に「立命館行こうや」って誘われて、受験して入ってみたら、「あれ？男子校やったんや」って(笑)

田中さん：

入試の時も男女で部屋分けられてるんかなと思ってたし(笑) 中学は男子校嫌やったけど、高校はもう慣れてるから楽しんでましたよ。

——それでは最後に、現役高校生、若い世代の卒業生にメッセージをお願いします。

南さん：

立命館はOB会とか活動が活発なので、若い世代の皆さんにも参加してもらって、そういった繋がりを持ってもらったら、人生にも違う面での充実感も出るんじゃないかなと思います。是非積極的に参加してみてください。



田中さん：

やっぱり今、人と人の繋がりが希薄になっている世の中ですけど、出来るだけOB・OG会とかには積極的に参加してほしいし、今だったらもっと自由にいろんなことが出来るのかなあと思ったり、自由にやりながら、感謝の気持ちもちょっと思いで、頑張してほしいなと思います。

田淵さん：

40年前の立命館高校を我がが卒業した時と、今の立命館高校の在学学生を見ると、ハード的などころも全然違うので、すごく今の高校生ってアカデミックになって、レベルも非常に高くて、自分の子どもを連れて立命館の説明会に参加した時、話を聞いていると我々はレベル低かったんやあって、非常に感じるんですよ。それだけの可能性を持ったお子さんが多いっていうのは、本当に立命館自体が進化しているな、というのは常に感じています。

ただ、我がが経験したような(自由な)校風もやっぱり大事に残していただいて。本来の立命館の良さっていうのを次の世代に引き継いでいってほしいなと思います。



中村さん：

今の立命館中学・高校は本当に優秀ですよ。硬式野球部にしても多分僕らの頃より野球の実力が高くなって、全体としてレベルが上がっていると感じています。

高校時代というのは、1年生だったら上の2学年まで、3年生になっても下の2学年まで、上下関係といえば、せいぜい5歳違いの世界の中で生きていると思うんですけど、社会人になってみると上は40歳年上の方でも仕事することもあるわけですよ。当然感覚も価値観も全然違う人たちと関わって仕事するという世界に変わる訳なんです。

そう考えると、やっぱり、「立命館高校出身」という、その縦の繋がりにちょっと興味を持ってほしいという。そういうことは人生の中で大きく生きていくものだと思うんです。これから先、そういうところも大事にしてほしいなと、そんな風に思います。

田中さん：キャプテンらしいですね！

田淵さん：昔のアホさがなくなってるよ！(笑)

中村さん：俺はこいつ(田中さん)よりかは賢かった！(笑)

田中さん：…どっこいどっこいや！(笑)

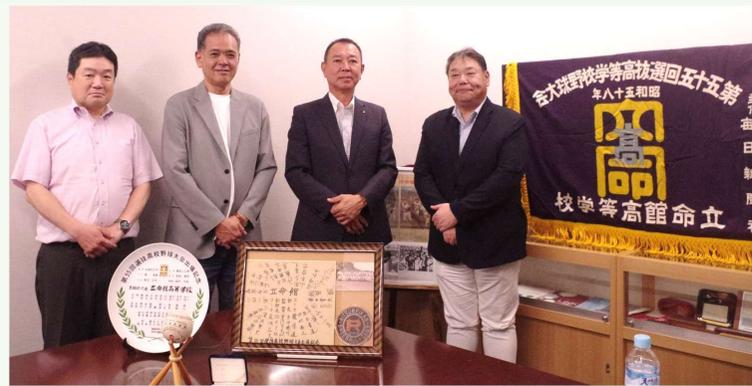
俺は(学力テスト)下から2番やった。

中村さん：俺は6番やった。

一同：(大笑)

田中さん：どっこいどっこい言うねんそれを(笑)

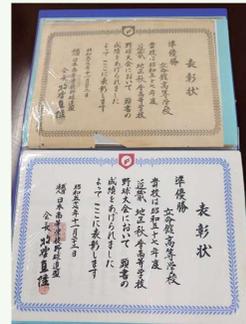
田淵さん：目くそ鼻くそともいうで(笑)



記念品と一緒に記念撮影



選抜出場記念品のセカンドバッグ



当時の表彰状の複製版



甲子園出場記念のお皿



記念ボール と 参加章のメダル



立命館中・高の地下倉庫に保管されている、多数の記念品等(当時の新聞記事や写真、ユニホームや旗など)
※インタビュー当日、市原先生がご用意下さいました



甲子園出場記念の寄せ書き色紙



取材当日、皆様から高校硬式野球部へ練習球を寄付されました

★編集後記★

本当に仲の良い皆さん。終始笑顔の絶えない雰囲気、貴重なお話をたくさん伺うことが出来ました。皆さんが学生の頃の当時の立命館の思い出話もたくさん伺うことが出来て、後輩として本当に興味深かったです。
泣く泣くカットさせていただいた昭和の時代ならではのエピソードも色々飛び出しましたが(笑)、幹事学年が高校生の頃と通ずる立命館の校風の良さを改めて感じました。
ご協力いただいた4名の選抜学年の卒業生の皆様、資料提供にご協力いただいた市原先生、本当にありがとうございました。
記念誌LINK2025担当 畑中乃梨子

2025年6月 立命館中学・高等学校 清和会記念室にて(長岡京)
インタビュー：大山 牧子
写真撮影：河合 正明
取材補助：山本 隆平・畑中 乃梨子
撮影協力：市原 康男 先生
一部写真：1984年卒 卒業アルバムより引用
記事作成：畑中 乃梨子



2025 年度 立命館中学校・高等学校は 創立 120 周年を迎えました



立命館中学校・高等学校 教頭(周年事業担当)鳥島 裕之

立命館中学校・高等学校は 1905 年に広小路キャンパスにおいて私立清和普通学校として創立し、2025 年度に創立 120 周年を迎えました。時代の要請に応じた教育を展開してまいり、その卒業生は既に 45,000 名を超えるまでになっております。

本校ではこの節目を契機に現在の教育活動を更に発展させるべく「創立 120 周年記念事業実行委員会」を設立し、記念事業の円滑な実行を支えて頂いております。

昨年 4 月に人工芝の張り替え等の第 1 グラウンドの改修が終了し、長岡京市長の中小路 健吾様、北京オリンピック陸上競技の銀メダリストでいらっしゃる朝原 宣治様、工事関係者や学園関係者を招いて竣工式を執り行いました。式典の後には、本校陸上部の他に工事中にグラウンドをお借りしていた学校の陸上部の部員の皆様などを招待して、朝原氏によるスプリントトレーニング講座も開催いたしました。



例年中高別で行われている芸術祭は昨年度および今年度共に中高全校生徒が一堂に会して開催いたしました。昨年度は大阪にある梅田芸術劇場で舞台「千と千尋の神隠し」を鑑賞いたしました。本公演は、本校生徒のみの貸切公演で、公演の最後には主演で千尋役の川栄 李奈さんから生徒たちに直接メッセージをいただくサプライズもあり、鑑賞を終えた生徒たちは満足した様子でした。

今年度は京都コンサートホールにて音楽鑑賞を行いました。第 1 部前半では、本校卒業生と教員が木管五重奏を披露し、会場を美しい音色で包み込みました。後半は、中学・高校それぞれの吹奏楽部が熟気あふれる演奏で会場を盛り上げ、日頃の練習の成果を発揮しました。第 2 部では、大阪・関西万博の開会式でも演奏を担当された Osaka Shion Wind Orchestra の皆さんによるスペシャルステージが実現しました。生徒たちも一度は耳にしたことのある楽曲がオーケストラバージョンで披露され、貴重な機会となりました。会の最後には、Osaka Shion Wind Orchestra の皆さんと中高吹奏楽部の部員によるスペシャルセッションも行われました。



今年の 7 月には京都市勤業館「みやこめっせ」において創立 120 周年記念式典を開催いたしました。当日は全校生徒および教職員、来賓の方々を含めて約 2,000 名が参加しました。第 1 部では、参加者全員による校歌斉唱の後に、学校法人立命館の森島 朋三理事長、仲谷 善雄総長、本校 東谷 保裕校長の挨拶に続き、本校卒業生でもあり、京都府副知事を務めていらっしゃる古川 博規様(1983 年卒)より在学中の思い出や在校生へのエールも含めたご祝辞を賜りました。

第 2 部の前半では、本校卒業生でロボットクリエイターでもある高橋 智隆様(1993 年卒)に「ロボット時代の創造」というタイトルで記念講演をしていただきました。講演の中では高橋様がこれまでに製作されたロボットも実際に動かしていただきました。その愛らしい姿や反応に会場からも感嘆の声が上がっていました。



第 2 部の後半では本校中高生徒会代表による創立 120 周年宣言、生徒自らが企画して社会貢献や探究学習の深化に取り組むプロジェクト「未来を描く」の採択証授与を行いました。式典の最後には本校ダンス部および立命館大学応援団によるパフォーマンス披露、そして参加者全員による学園応援歌「グレーター立命」の合唱で締めくくりました。

創立 120 周年記念事業については、周年記念特設サイトに詳細を掲載しております。特設サイトには各界で活躍されている卒業生のインタビュー等も掲載しておりますのでぜひ一度ご覧ください。

立命館中学校・高等学校120周年特設サイト →



立命館小学校の皆さん

素敵なパフォーマンスを、お楽しみに！



皆さまこんにちは！
私達は立命館小学校チアリーディングチーム、TWINKLE PEEWEES☆です。
立命館小学校は今年創立20周年を迎えます。開校とともに誕生した当チームも同じく20年目を迎え、当時最年長だった受講生たちは30歳となりました。大学でチアを続けた卒業生達もおります。
本日は1~6年生60名近いメンバーで清和会を盛り上げる演技を披露しました。
皆さまぜひ私達と共に声高らかにグレーター立命をご唱和下さい！



立命館小学校合唱部は、コンクール出場、コンサート出演、ミュージカル公演など様々な演奏体験を通して、仲間とともに歌唱力や表現力を高め合い、一つの作品を作り上げることを楽しみながら活動しています。今回の出演でも、聴いてくださる方々に音楽の楽しさを伝え、繋がることができたいと思います。

—卒業後25年目のVOICE—（2001年

こんにちは、幹事学年（2001年卒）です。幹事学年の仕事特集をさせていただくことで、先生方へ：深草校舎では大変お世話になりました。先生方の教えがあってこそ、今の私たちの



大山 牧子

神戸大学 大学教育研究センター
/ 大学院 国際文化学研究所
准教授

立命館高校→立命館大学政策科学部→大学院政策科学研究科→京都大学大学院教育学研究科
※高校では陸上部・生徒会長でした

大学教員の仕事は、研究・教育・社会貢献・管理運営の4つに分けられます。

私は教育学を専門とし、大学の授業や学び方について研究しています。特に、「ふりかえり」が学びをどう深めるかに関心を持ち、日々探究を続けています。また、大学の先生方に向けて、新しい教育方法の提案や、大学教育の改善や改革に関わる仕事にも取り組んでいます。授業や院生の研究指導といった教育活動のほか、学会の理事として学問分野の発展にも関わっています。

職に就くまでは長い道のりでしたが、毎日が発見の連続でとてもやりがいのある仕事です。



奥村 暢史

株式会社 博報堂
ビジネスデザイン局

立命館高校→立命館大学法学部

優秀な学生時代を送ったわけではないものですから、当時はコレと言えぬ夢とか目標を考えることが出来ず、、、だからこそ、領域が多様で、可能性や謎を秘めた広告の仕事に興味を持ちました。入社から20年経ち、TVCMやイベント、商品開発やコンサルと、ほんの少しですが暮らしを面白く・豊かにする方向へ導ききっかけのようなものを創れたんじゃないかなど。「何にでもなれる」学生のみなさんの今を想うと、心からワクワクします。私もまだまだ型にはまらず、気張っていいこうと思う次第です。

卒) 幹事学年はこんな仕事をしています！

これから活躍するRits生の夢や目標を応援したいと企画しました。たくさんの方に届きますように。姿があります。感謝を込めてお届けします。



崔 理恵

KYOTO LAUNDRY CAFE オーナー
任意団体 ブレンディング
コミュニティ代表

立命館高校→立命館大学産業社会学部→ソウル外国語大学院

「コインランドリーにカフェ？」
私の仕事は、京都・西院で「Kyoto Laundry Cafe」という“人が混ざる場所”を運営すること。洗濯の待ち時間にコーヒーを楽しむんだり、語学交流やマルシェ、イベントを通じて人と出会ったり。そんな“ごちゃまぜ”な日常がここにはあります。昔は韓国でグローバルチームで働き、帰国後に「個人が自由に気楽につながる場を作りたい」と思い立ち、ゼロからこの仕事を始めました。仕事はカフェ運営だけでなく、企画、広報、掃除、相談役まで。正解はひとつじゃなく、自分やご近所さんの「やってみたい！」を形にする毎日です。



竹田 真司

株式会社 GSユアサ
情報システム部
グループマネージャー

立命館高校→立命館大学政策科学部→大日本スクリーン製造→GSユアサ

大学では情報科高校教諭免許取得し、また休学してバックパッカーで海外50か国以上を巡りました。卒業後は京都の企業に就職しましたが、海外関係やITの仕事に就くため転職し、今は情シスのマネージャーとして国内外で自社のシステム導入や保守をしています。

それとは別に革ジャンを着たカメラマンとして、バンドやアイドルのライブやアーティスト写真の撮影をしています。米国、台湾、豪州へのツアー同行や個展開催など精力的に活動中です。

今も学生時代の延長線上で生きています。



中村 大輔

歯科医師

立命館高校→朝日大学歯学部

卒業後は大学付属病院で研修、大阪の歯科医院にて勤務、中京区で父から医院継承し今年で13年目になります。

カナダトロント大学の専門卒後研修プログラムを修了し主に自由診療での根管治療（歯の神経の治療）、手術用顕微鏡による精密治療を専門にしています。

高校ではラグビー部でした。先日OB会の集まりで生徒の保護者の方が私の患者さんでお互いにびっくり！不思議なご縁を感じる今日この頃でした。



古澤 清貴

フリー株式会社
管理本部 広報部 部長

立命館高校→立命館大学法学部→キヤノンS&S(株)→フリー(株)(旧オムロンエンタテインメント(株))

就活中になんとなく友人の勧めで受けたエンタメ企業の体験が忘れられず、第二新卒としてフリーに入社。入社直後は営業として全国飛び回り、通称：ブリクラを販売。販売を進めるため自身で宣伝を企画していた事をきっかけに、宣伝部門を立ち上げることとなり、販促・広告・広報と様々な業務に携わり、現在は全事業部門とコーポレートの広報・ブランド責任者を務めています。昨今のエンタメ業界への追い風を背景に、海外に向けてもHAPPYを届けられるよう楽しみながら日々取り組んでいます！



三井 貴浩

社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団
徳島県立障がい者交流プラザ
視聴覚障がい者支援センター

立命館高校→立命館大学産業社会学部人間福祉学科 (高校はバス部でした！)

大学卒業後、一度は京都で就職しましたが、その後、妻の故郷である徳島に移住、現在は上記施設に勤務しています。仕事を通じ、手話通訳士や点字技能師、図書館司書などの資格も取得しました。

福祉の仕事はマイナスなイメージを持たれやすい側面もありますが、それ以上にやり甲斐もあり、楽しさもあり、責任もあり、この社会になくはならない仕事です。立命館での学びを福祉の分野で発揮してくれる、そんな仲間がこれからも増えてくれることを卒業生のひとりとして願っています！



吉田 康治

鍼灸・マッサージ治療院ACU
代表

立命館高校→立命館大学産業社会学部→関西医療学園専門学校東洋医療学科

立命館大学体育会硬式野球部で初の学生トレーナーに。卒業後、鍼灸・あん摩マッサージ指圧師の国家資格を取得。

同級生のプロ野球広島東洋カープ赤松真人の自主トレーニングを15年間サポート。プロ野球チームの臨時トレーナーも経験し、現在は北堀江で治療院を営みながら、大学女子野球部のコーチ、母校立命館大学硬式野球部のチーフトレーナーとして12年間関わっています。また講師として、トレーナーや治療家の若い学生さんを育成しています。たくさんの方の若い力と関わり、日々成長、活力をもらっています。

幹事学年、こんなスケジュールで働いてい

清和会総会・懇親会の幹事学年は、卒業25年目。1982、83年生まれの私たちは40代になりました。現高3生が社会に出る時代には、働き方はより多様になっているとは思いますが、今の40代前半の



井上 真由美

ダイキン工業 (株)
秘書室

立命館高校 → 立命館大学国際関係学部
※高校では帰宅部でした。

- 6:30 起床, 朝食
- 8:30 出勤
- 8:45 役員とMTG
- 10:00 社内会議
- 13:00 来客対応, 接遇
- 14:00 役員のスケジュール調整等
- 17:30 役員とMTG
- 19:00頃 退勤
- 20:00 夕食
- 21:00 息子との時間
- 22:00 就寝

大学卒業後、空調メーカーで秘書として役員をサポートしています。会社がグローバルに成長・発展するのに合わせて、私自身も様々な国・立場の人と出会うことができ日々刺激を受けています。



内田 真利子

近鉄国際貨運 (広州)
営業 中国広東省勤務

立命館高校 → 立命館大学理工学部
※高校陸上部 (幅跳)

- 6:00 朝食, お弁当準備
- 8:00 出勤, メール処理
社内会議
- 12:00 昼食
- 13:00 お客様訪問
- 15:00 見積提案書作成
- 17:00 退勤
ネットで食材注文
- 17:30 お迎え,
夕食準備
- 18:30 夕食
- 21:00 寝かしつけ
- 22:30 就寝

中国で国際物流の営業に従事。発着地の世界各地と英語で、社内や中国のお客様と中国語でやりとり。学生時代は将来像がなく、29歳の時に「海外で働きたい」と当時の仕事をやめ、専攻と全く違う、言葉もわからない中国へ。何歳からでもやりたいことにチャレンジはできます！

ます！ ~ 未来の自分は？ ~

仕事や育児に邁進し、理想の働き方をまだまだ模索中の日々を送っています。リアルなタイムスケジュールをお伝えしたいと思います。



河合 正明

ネクストプラス企業年金基金
/かわまさ行政書士事務所

立命館高校 → 立命館大学法学部
※高校では帰宅部でした！

- 6:30 起床・朝食
- 8:30 出勤, 前日分の業務チェック, 決裁処理, 資料作成
- 12:00 昼食
- 13:00 会社訪問, ウェビナー, 届出処理など
- 19:30 退勤, 音楽, 読書
- 24:00 就寝

企業年金という、会社が従業員に提供する年金制度の管理・運営をサラリーマンとして行っています。コロナ禍のころに副業が解禁され、個人で行政書士事務所を開業し、許可申請や外国人ビザ申請などを行うダブルワークとなりました。2つの仕事で相乗効果が出るよう努めています。



近藤 直人

nLDK一級建築士事務所
共同主宰
大学非常勤講師

立命館高校 → 立命館大学理工学部
→ 同大学院理工学研究科

- 5:30 起床
TODO, メール
- 6:00 朝ランニング
- 7:00 朝食, 家事, 読書
- 9:00 始業
ふだんは自宅仕事
現場打合せ,
大学出講の日もあり
- 12:00 昼食
- 13:00 仕事再開
- 19:00 夕食, 入浴,
読書
- 22:30 就寝

建築設計事務所をしています。リサーチから図面や模型づくり、工事現場の監理までする仕事です。日々、発見と学びがあり「楽」ではないけど「楽」しい仕事です。2023年には大阪(旧:初芝)立命館中学校のエントランスデザインに携わらせていただき、懐かしい中学時代の恩師とも再会できました。



武田 (宮田) 奈央子

京都府立医科大学附属病院
病理診断科
病理専門医/呼吸器外科専門医

立命館高校 → 関西医科大学医学部医学科
※高校では、男バス マネージャーでした！

- 6:15 起床, 朝食準備
- 8:30 出勤,
カンファレンス,
病理診断
- 12:00 昼休憩
- 13:00 病理診断,
学生実習
- 18:30 お迎え
- 19:00 夕食・お風呂
- 21:30 寝かしつけ
- 22:00 自由時間/仕事
- 23:00 就寝

大学卒業後、外科医として8年勤務した後、現在は病理医として診療に従事しています。病理診断は、治療方針の決定に重要な役割を担っており、やりがいを感じています。育児(3歳娘)との両立をしながら、これからも経験と知識を積み重ねていきたいです。



谷 清人

株式会社VRidges
代表取締役

立命館高校 → 立命館大学理工学部
※高校では、野球部でした！

- 8:30 出勤
メール,
タスク整理
- 9:00 社内MTG
- 11:00 取引先訪問
- 13:00 お昼休憩
- 14:00 採用面接
- 16:00 社員フォロー
- 18:00 当月収支確認
- 20:00 帰宅&夕飯
- 21:00 趣味の時間
- 23:00 就寝

ITエンジニアの派遣ならびにIT未経験者向けの教育事業を営んでいます。IT未経験の20代の社員が成長して一人前のエンジニアとして他の社員と対等に話している姿を見ると涙が出そうになります。今後は情報セキュリティ分野で10年以内に上場します。



山崎 (三木) 笑

弁護士 (立進法律特許事務所)
立命館大学法科大学院教授

立命館高校 → 立命館大学法学部
→ 立命館大学法科大学院

- 7:00 起床
- 9:30 事務所に出勤
- 11:30 裁判期日に出席
- 12:30 昼食
- 14:30 法科大学院
(朱雀キャンパス)
へ移動
- 16:20~19:30
法科大学院で授業
- 21:00 帰宅
その後夕食
- 23:00 就寝

法学部から法科大学院に進学し司法試験を受けて、弁護士になりました。大阪の事務所では働いています。10年程前からは、週二日法科大学院へ行って後進の指導もしています。左は授業がある日のスケジュールです。今後、社会に貢献できる仕事をしていきたいと考えています。



若山 剛士

ハーバーベスト・パートナーズ
インベスター・リレーションズ

立命館高校 → 立命館大学理工学部数理科学科 →
立命館大学大学院理工学研究科数理科学専攻

- 6:30 起床
- 8:30 出勤
- 9:00 - 18:00
勤務時間
資産運用の提案
顧客対応
投資先マネージャー,
投資先企業についての情報収集
- 19:00頃 退勤
- 24:00頃 就寝

未公開企業への投資が得意な資産運用会社で、機関投資家向けの運用サービスを提供しています。金融業界の中では銀行や証券会社に比べるとやや地味に見える業種かも知れませんが、顧客の資産を増やすことが自分たちの利益になるという業界の構造が気に入っています。

幹事学年のターニングポイント！私たちの

中学から入学の人もいれば、高校からの人も。立命館大学へ進学する人もいれば、他の場所を選ん
これから皆さんが人生のターニングポイントに対峙する時、きっとRitsの同窓生や後輩、先輩、そし

「きっかけ」って何だったんだろう？

だ人も。「分かれ目」があって今がある！40代の自分の転換期となった出来事とは？
て先生方が近くに来てくれるはず。高3生が素敵なチャンスに恵まれます様にお祈りしています。



足立 孝晃

リジェネロン・ジャパン
株式会社

立命館高校 → 立命館大学産業社会学部
→2005/IT企業 → 2010/製薬企業

ターニングポイント：

①転職を考えていた時、父親の病気をきっかけ
に医療業界へ。

②更なる成長を求めて、2回目の転職。

2010年から14年間勤めた日本イーライリリー
株式会社を退職し、現職へ。

ターニングポイントを経た今：「あの患者さん
良くなったよ」と医師から教えてもらうことが
嬉しい瞬間。勇気を出して業界を変え、良い環
境で仲間にも恵まれ成長を実感出来ています。
“人を笑顔に”、“誰かの役に立つ”という
気持ちを忘れないよう意識しています。



金沢 宏俊

ビストロ ラ・ブークル
オーナー

立命館高校 → 立命館大学法学部
※高校時代は、サッカー部 → 帰宅部

ターニングポイント：ワーキングホリデーで
滞したオーストラリア、タスマニア島での
生活。考え方や価値観が根本的に変わりました。
自分がどう思われているかなど人からの
評価も気にならなくなりました。

ターニングポイントを経た今：自己実現の時
間と家族との時間のバランスをとりながら、
今後も固定概念にとらわれず、何かと比べる
のではなく自分が決めた事を全うしたいと思
います。コロナ渦を機に狩猟を始めました。
天然の肉の調理・加工、行く行くは野菜も挑
戦し、生涯をかけて取り組んでいこうと思
います。



竹田 健二郎

立命館守山中学校
中1学年主任・英語科教諭
・陸上競技部顧問

立命館高校 → 立命館大学経済学部 →
約10年国内外の5つ星ホテルで勤務+スイ
スでMBA → 塾講師兼副校長 → 中学校教員

ターニングポイント：高校時代から憧れてい
たホテル業界でたくさん目標・夢を叶えて
きたが、得た知識や経験をこれからの日本を
担っていく若い人たちに還元したいと思い、
現職の道を進むことを決断。

ターニングポイントを経た今：中学生という
心身ともに急激に成長する3年間を近くで見
届けられる、サポートできる喜びに日々浸っ
ています。恩師の先生方だったらどんな声掛
けをするかな、と想像しながら、自分のオリ
ジナリティも織り交ぜながら、日々楽しく全
力で生徒と接しています。



田中 拓

フリーランスWEBエンジニア
ベトナム在住

立命館高校 → 京都大学工学部 → IT企業起業
→ フリーランスエンジニア

ターニングポイント：27歳のときに会社を
立ち上げ、がむしゃらに働く日々の中で自分
が本当にやりたかったことを見失ってしま
した。そして、会社を畳む決断をしました。
「肩の荷が下りた」と感じました。

ターニングポイントを経た今：「なぜそれ
をするのか」「自分にとって意味があるのか」
といった視点で仕事を選ぶようになりました。
現在はベトナムのダナンという街で猫2匹と
暮らしています。



服部 いくみ

専業主婦
(10歳・7歳姉妹の母)

立命館高校 → 立命館アジア太平洋大学アジ
ア太平洋学部 ※高校時代：陸上競技部

ターニングポイント：今思えば、高校1年時
のフィリピンからの留学生との出会い。翌年
フィリピンで、その後、大学で再会。現在、
オーストラリアに住む彼女とは、今も交流があ
ります。

ターニングポイントを経た今：大学卒業後、
一旦就職するも、夢を諦めきれず、ニュー
ジーランドへ。帰国後、大学事務等を経て、
現在は、言葉も文化も異なる英国で、子育て
奮闘中です。人生はどんなきっかけで変わる
か分からないので、今を大切にすることを心
がけています。



林 伸行

アルバイト&音楽ライター

立命館高校 → 立命館大学文学部 → ここでは書
けない仕事 → (株)メインライン → (株)
I-ne → (株)Right Here → (フリーター)

ターニングポイント：大学四回生時に、音楽
関係の道に未練があったため卒論だけ残して
五回生へ進み、就活しなかったこと。

ターニングポイントを経た今：こんなとこ
ろに載っていい存在なのかは疑問ですが…紆余
曲折を経て現在に。履歴書に書くこと無茶苦茶
な経歴。コネで入った前職で、美容系メー
カーのスタートアップを代表取締役を含めて
数社経験。中でもI-neは上場して今では大
きな会社へと成長。初期を思い返すと遠い目
に。現在は週4でバイト&細々とバンドをし
つつ音楽ライター業。あの頃の夢の続きをま
だ見えています。



藤井 優香

ピアニスト

立命館高校 → 桐朋学園大学 → 渡欧 → リヨン
地方音楽院伴奏助手 → 2016年完全帰国

ターニングポイント：大学在学中にアンサン
ブルの楽しさを知り、恩師に声をかけて頂い
てジュネーブへ留学。フランスにてさらに研
鑽を積み、サクソフォークラス伴奏助手を務
める等、活動の幅を広げる事ができました。

ターニングポイントを経た今：10年以上に
およぶヨーロッパ生活から帰国後、フランス
との文化や考え方等の違い、日本とは全く異
なる音楽へのアプローチ、「音」を「楽」し
む事を伝えられるよう、子育てをしながら
様々な楽器との演奏活動や後進の指導にあ
たっています。



宮城 裕美

広告代理店勤務 → 広告代理店
株式会社 LAUGHTER
代表取締役

立命館高校 → 立命館大学産業社会学部
※高校時代はバスケット部でした！

ターニングポイント：広告代理店の営業とし
て働いていましたが、30歳の時に、同世代
の経営者が集まる団体に所属し、もっと自由
に働きたいと一念発起して、起業しました。

ターニングポイントを経た今：あっという間
に時がたち、設立した会社は2025年で創業
10年を迎えました。広告の企画制作に始ま
り、地域に密着した広告会社としてイベント
等の企画運営にも携わっています。コミュニ
ケーションを創造する企業としてこれからも
社会に貢献していきたいと思っています。

各学年・交流ページのご案内



立命館高校 昭和55年(1980年)卒業生の集い (by 第61代生徒会有志) >

プライベートグループ・メンバー37人

グループに参加する

情報

立命館高校 昭和55年(1980年)卒業生の集い
高校時代同様に自由にやりましょう



立命館高校昭和56年卒同窓会

61件の「いいね!」・フォロワー63人

立命館高校を昭和56年に卒業した同窓会のページです。
今後の同窓会の案?



立命館高校1982年卒業の同窓会 >

プライベートグループ・メンバー55人

グループに参加する

情報

2013年1月3日の同窓会を機会にFBでグループを作りました。FBフレンドに同窓生がいる方は
どんどん登録してください。



立命館中学・高校 (95年卒) >

プライベートグループ・メンバー114人

グループに参加する

情報

立命館高校1995年 (H7) 3月卒業生のグループ。
mixiの方からここに移動? http://mixi.jp/view_community.pl?id=290727



立命館高校1999年卒業生の会 >

プライベートグループ・メンバー127人

グループに参加する



立命館高校H4卒 >

プライベートグループ・メンバー115人

グループに参加する

情報

立命館高校平成4年卒業生限定のグループです。
つながりのある同級生を招待してH4年卒の輪を広げていきませんか?



※各学年の交流の場を掲載させていただいております。

個人情報保護の観点から、同窓生であることを確認、「承認」されて参加できるサイトを掲載させていただいています。次年度以降も自動的に掲載される可能性がありますので、変更または新規掲載申し込みは、下記の幹事学年E-mailアドレスまでご連絡をお願いします。

幹事学年E-mailアドレス: seiwakai.rits@gmail.com

デジタルサイネージ広告・掲出風景

地下鉄京都駅

掲出期間：2025年8月11日～8月17日



地下鉄四条駅

掲出期間：2025年9月1日～9月7日



大還暦 2025年10/25(土)

RITSUMEIKAN 大還暦

第114期 立命館清和会 総会・懇親会

2025年10月25日(土) 11:30~16:00

ウェスティン都ホテル京都

立命館 清和会 2025 検索

チラシ制作

第114期 立命館清和会 総会・懇親会のご案内

創立120周年

2025年10月25日(土) 11:30~16:00

受付 11:00~

■懇親会終了後、学年クラス、クラブ等の同窓会を実施するチャンス!

立命館清和会事務局

TEL: 075-323-7111 (9:00~17:00, 土・日・祝祭日) FAX: 075-323-7123 (24時間受付)

〒600-8501 京都市中京区錦町1-1-11 立命館大学 立命館ビル 10F

題字・サイネージ素材の撮影風景



題字担当者のご紹介

書道家 藤井 翔夢 氏
~書であなたの夢を導く~
京都を中心に活躍されています



卒業25年目の幹事による 清和会総会・懇親会 情報発信

清和会学年会ホームページの企画・運営
<https://seiwakai-rits.jp/>

総会・懇親会開催に向けて、より多くの会員の皆様を目にとまるよう情報を発信しました。総会・懇親会の様子を掲載予定です。



引き続きフォローをお願いします！



Facebook (旧:Twitter) Instagram

各種SNSへの投稿

Facebook



X (旧:Twitter)



Instagram

幹事の活動報告、総会・懇親会情報、長岡京探訪、10年前の懐かしの深草校舎の写真投稿など、12月から情報発信しました



2025年度 清和会総会・懇親会開催までの道のり

- | | | |
|---|---|--|
| 2023年
11月 幹事メンバー立ち上げ
2024年
幹事メンバー 前年度合同会議参加
総会テーマ、企画案などの構想を練る
10/26 113期清和会総会出席 【引継ぎ式】
11月～【SNS投稿開始】
【清塚氏所属事務所・ホテルとの打合せ開始】 | 2025年
1/25 114期キックオフ会
【チラシ作成】
【記念誌LINK作成開始】
【清和会学年会HP活動開始】
4/12 第1回合同会議出席
5月 遊目 春号チラシ同封
【協賛活動開始】 | 7/5 第2回合同会議出席
7/8 創立120周年記念式典 参列
【新聞広告打合せ】
8月 遊目 夏号チラシ同封
【デジタルサイネージ放映】
8/11～京都駅、9/1～四条駅
9/6 第3回合同会議出席
【京都新聞広告掲載】
【ホテル、撮影業者等 会場打合せ】 |
|---|---|--|



RITSUMEIKAN 第114期 立命館清和会 総会・懇親会のご案内 創立120周年

今年も 立命館清和会は、立命館小学校、立命館中学校・高等学校の卒業生の同窓会組織です。母校の発展、同窓生の懇親を目的に、各学年の同窓会支援などを行い、年に1度の総会・懇親会を開催しております。

開催日 2025年10月25日(土)
開催日時 11:30～16:00
 <受付 11:00～>

- 昼スタート!
お間違いないようご注意ください。
- 総会終了後、学年やクラス、クラブ等の同窓会を実施するチャンス!

ウェスティン都ホテル京都 4F「瑞穂の間」
 京都市東山区粟田口南頂町1
 地下鉄東西線「蹴上駅」2番出口より徒歩2分
 お問い合わせ番号：075-771-7111

ピアニスト
清塚信也氏による特別演奏会!

大還暦

そして永続へ

第114期 立命館清和会
総会・懇親会のご案内

プログラム予定

11:00	受付開始
11:30	オープニング 第114期 総会
12:30	メイン企画 ピアニスト 清塚信也氏 120周年記念公演
13:30	懇親会
16:00	終業予定

プレミアム抹茶スイーツコラボ

創業1836年、今年度幹事の森本・7代目森下大輔とウェスティン都ホテルのコラボレーションによるスイーツを提供

その年の一番茶のみを使用した贅沢な抹茶を感じる宇治抹茶スイーツをお楽しみください。

※抹茶(森本)は創業以来伝統と安全を大切にブレンド、製造管理を行い、現在では日本有数の抹茶産地企業です。その選別は国内のみならず世界30ヶ国以上に展開している森本を中心とした産地を巡ります。

<p>株式会社 岡野組 代表取締役 岡野 益巳 (S28年)</p>	<p>株式会社 トーセ 代表取締役 藤原 隆夫 (S28年)</p>	<p>ON YOUR SIDE 代表取締役 藤原 隆夫 (S28年)</p>	<p>株式会社 吉川組 代表取締役 吉川 隆夫 (S28年)</p>	<p>株式会社 住友建設 代表取締役 住友 隆夫 (S28年)</p>	<p>株式会社 VRidges 代表取締役 住友 隆夫 (S28年)</p>
<p>株式会社 山崎組 代表取締役 山崎 隆夫 (S28年)</p>	<p>株式会社 山崎組 代表取締役 山崎 隆夫 (S28年)</p>	<p>株式会社 山崎組 代表取締役 山崎 隆夫 (S28年)</p>	<p>株式会社 山崎組 代表取締役 山崎 隆夫 (S28年)</p>	<p>株式会社 山崎組 代表取締役 山崎 隆夫 (S28年)</p>	<p>株式会社 山崎組 代表取締役 山崎 隆夫 (S28年)</p>

立命館清和会事務局 〒617-8577 京都市長岡京市清子一丁目1-1 (立命館中学校・高等学校内) TEL 075-323-7111 (9:00～17:00) 土・日・祝日を除く FAX 075-323-7123 (24時間) E-mail seiwakai@fkc.ritsumei.ac.jp